

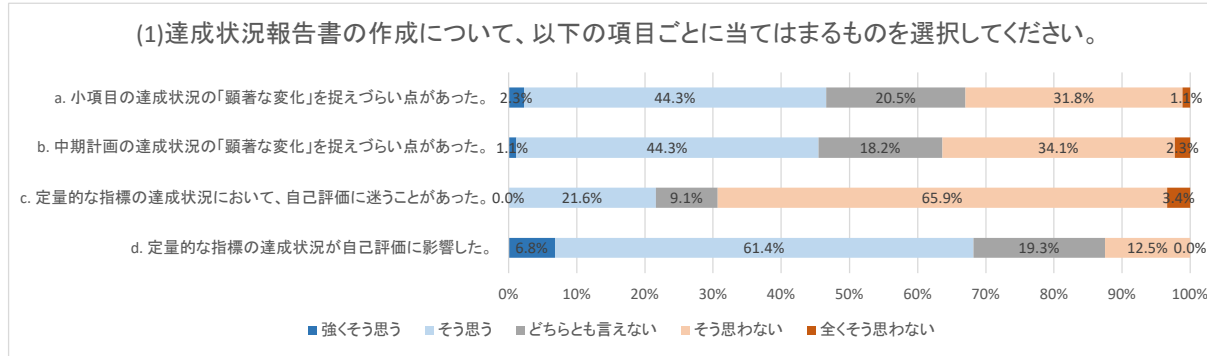
第3期中期目標期間の教育研究評価(中期目標期間終了時)に係る検証アンケート集計結果【法人向け】

I 達成状況報告書について

問1 達成状況報告書作成の際の自己評価について

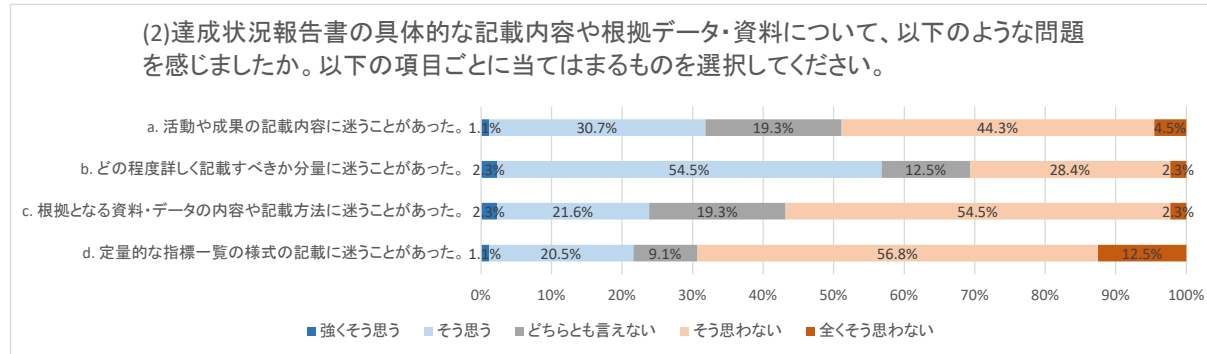
(1) 達成状況報告書の作成について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 小項目の達成状況の「顕著な変化」を捉えづらい点があった。	2.3%	44.3%	20.5%	31.8%	1.1%
b. 中期計画の達成状況の「顕著な変化」を捉えづらい点があった。	1.1%	44.3%	18.2%	34.1%	2.3%
c. 定量的な指標の達成状況において、自己評価に迷うことがあった。	0.0%	21.6%	9.1%	65.9%	3.4%
d. 定量的な指標の達成状況が自己評価に影響した。	6.8%	61.4%	19.3%	12.5%	0.0%



(2) 達成状況報告書の具体的な記載内容や根拠データ・資料について、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

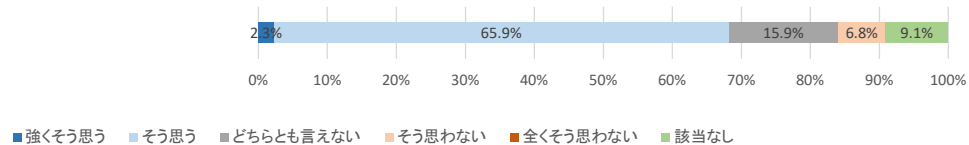
	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 活動や成果の記載内容に迷うことがあった。	1.1%	30.7%	19.3%	44.3%	4.5%
b. どの程度詳しく記載すべきか分量に迷うことがあった。	2.3%	54.5%	12.5%	28.4%	2.3%
c. 根拠となる資料・データの内容や記載方法に迷うことがあった。	2.3%	21.6%	19.3%	54.5%	2.3%
d. 定量的な指標一覧の様式の記載に迷うことがあった。	1.1%	20.5%	9.1%	56.8%	12.5%



(3) 今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」は、計画どおり実施できていなくとも、プロセスや内容等を考慮し、判定することとしていました。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、自己評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください。(「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を自己評価しなかった法人は「該当なし」を選択)

強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	該当なし
2.3%	65.9%	15.9%	6.8%	0.0%	9.1%

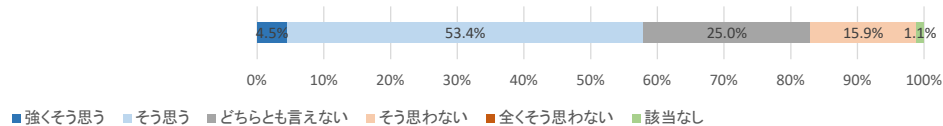
(3) 今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」は、計画どおり実施できていなくとも、プロセスや内容等を考慮し、判定することとしていました。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、自己評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください。(「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を自己評価しなかった法人は「該当なし」を選択)



(4) 新型コロナウイルス感染症による影響を受けた中期目標・計画について、自己評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください。

強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	該当なし
4.5%	53.4%	25.0%	15.9%	0.0%	1.1%

(4) 新型コロナウイルス感染症による影響を受けた中期目標・計画について、自己評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください。

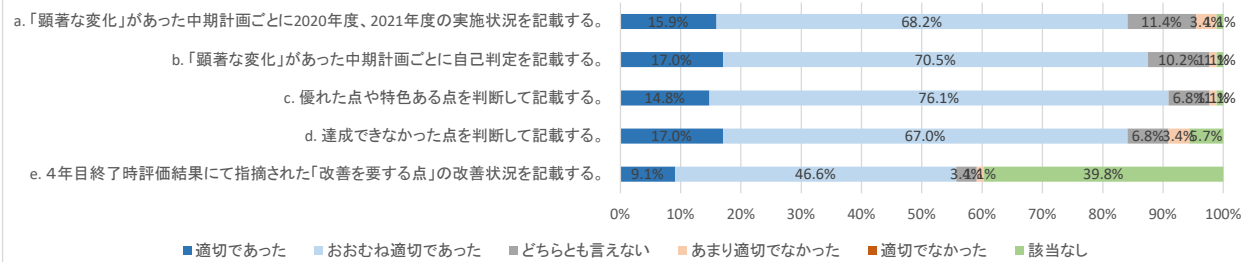


問2 達成状況報告書の書式について

(1)機構が設定した以下のような達成状況報告書の書式は、達成状況報告書を作成する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切であった	おおむね適切であった	どちらとも言えない	あまり適切でなかった	適切でなかった	該当なし
a. 「顕著な変化」があった中期計画ごとに2020年度、2021年度の実施状況を記載する。	15.9%	68.2%	11.4%	3.4%	0.0%	1.1%
b. 「顕著な変化」があった中期計画ごとに自己判定を記載する。	17.0%	70.5%	10.2%	1.1%	0.0%	1.1%
c. 優れた点や特色ある点を判断して記載する。	14.8%	76.1%	6.8%	1.1%	0.0%	1.1%
d. 達成できなかった点を判断して記載する。	17.0%	67.0%	6.8%	3.4%	0.0%	5.7%
e. 4年目終了時評価結果にて指摘された「改善を要する点」の改善状況を記載する。	9.1%	46.6%	3.4%	1.1%	0.0%	39.8%

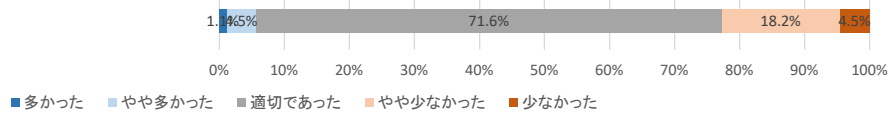
(1)機構が設定した以下のような達成状況報告書の書式は、達成状況報告書を作成する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。



(2) 達成状況報告書のページ数の目安は、達成状況報告書を作成する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった
1.1%	4.5%	71.6%	18.2%	4.5%

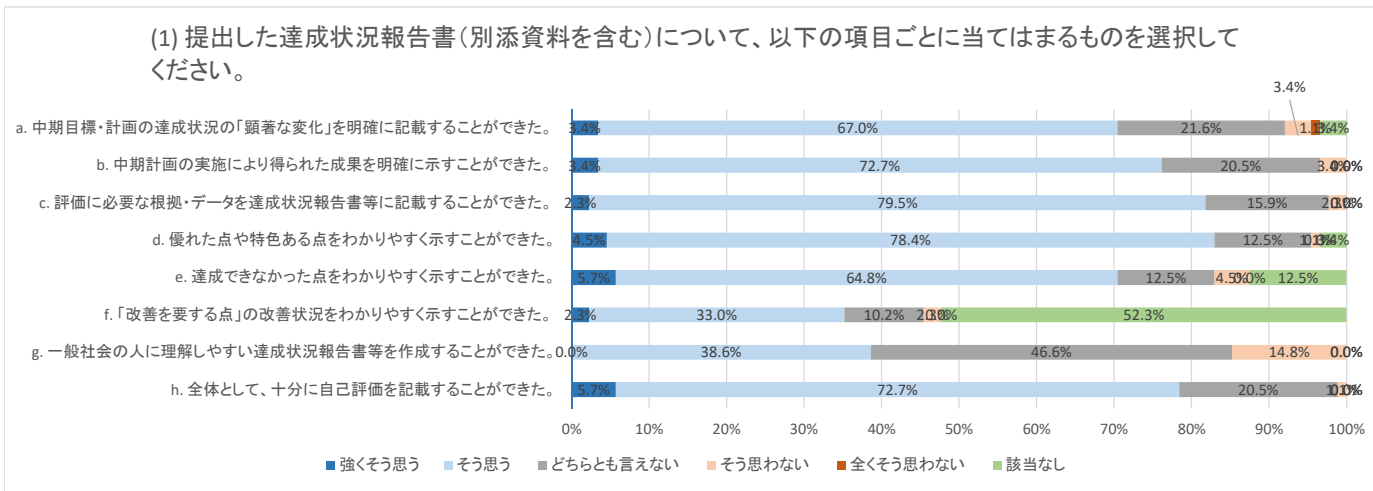
(2) 達成状況報告書のページ数の目安は、達成状況報告書を作成する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。



問3 貴法人から提出した達成状況報告書について

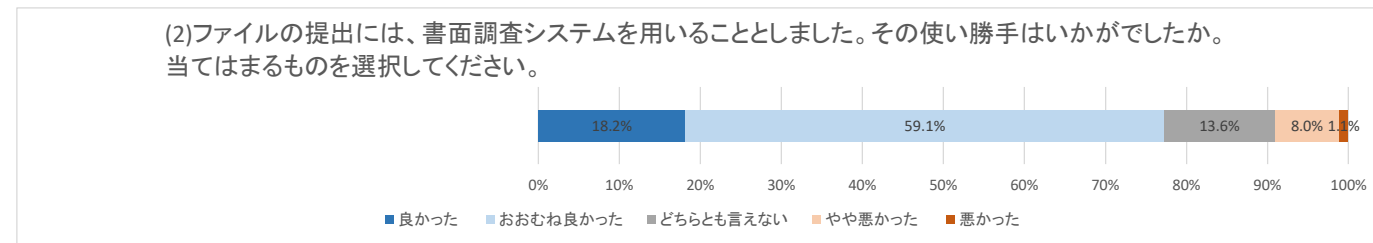
(1) 提出した達成状況報告書(別添資料を含む)について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	該当なし
a. 中期目標・計画の達成状況の「顕著な変化」を明確に記載することができた。	3.4%	67.0%	21.6%	3.4%	1.1%	3.4%
b. 中期計画の実施により得られた成果を明確に示すことができた。	3.4%	72.7%	20.5%	3.4%	0.0%	0.0%
c. 評価に必要な根拠・データを達成状況報告書等に記載することができた。	2.3%	79.5%	15.9%	2.3%	0.0%	0.0%
d. 優れた点や特色ある点をわかりやすく示すことができた。	4.5%	78.4%	12.5%	1.1%	0.0%	3.4%
e. 達成できなかった点をわかりやすく示すことができた。	5.7%	64.8%	12.5%	4.5%	0.0%	12.5%
f. 「改善を要する点」の改善状況をわかりやすく示すことができた。	2.3%	33.0%	10.2%	2.3%	0.0%	52.3%
g. 一般社会の人に理解しやすい達成状況報告書等を作成することができた。	0.0%	38.6%	46.6%	14.8%	0.0%	0.0%
h. 全体として、十分に自己評価を記載することができた。	5.7%	72.7%	20.5%	1.1%	0.0%	0.0%



(2) ファイルの提出には、書面調査システムを用いることとしました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。

良かった	おおむね良かった	どちらとも言えない	やや悪かった	悪かった
18.2%	59.1%	13.6%	8.0%	1.1%

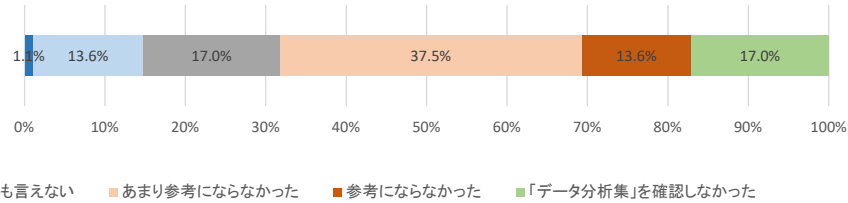


問4 参考資料「データ分析集」の活用について

(1)「データ分析集」は達成状況報告書を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。当てはまるものを選択してください。

参考になった	おおむね参考になった	どちらとも言えない	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	「データ分析集」を確認しなかった
1.1%	13.6%	17.0%	37.5%	13.6%	17.0%

(1)「データ分析集」は達成状況報告書を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。当てはまるものを選択してください。

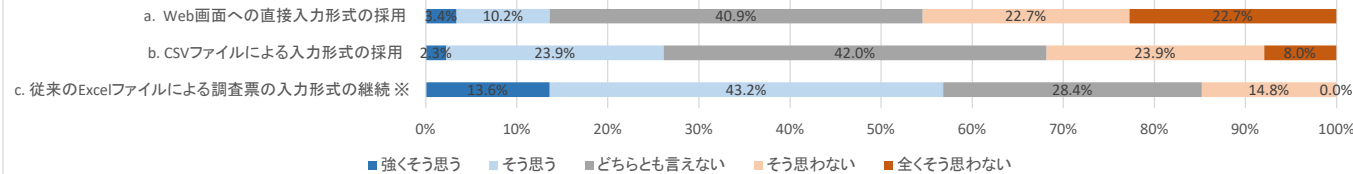


(2) 第4期中期目標期間においては、「データ分析集」の指標の精選及び「入力データ集」の廃止による調査項目の削減のほか、「データ分析集」のシステム再構築の検討を進めています。第3期中期目標期間においては、「データ分析集」及び「入力データ集」に利用する教育研究データを各法人から収集する際に、Excel形式の調査票への入力を依頼しました。第4期中期目標期間においてどのような入力形式の採用が望ましいか、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. Web画面への直接入力形式の採用	3.4%	10.2%	40.9%	22.7%	22.7%
b. CSVファイルによる入力形式の採用	2.3%	23.9%	42.0%	23.9%	8.0%
c. 従来のExcelファイルによる調査票の入力形式の継続 ※	13.6%	43.2%	28.4%	14.8%	0.0%

※調査票について…本評価を実施するにあたり、毎年度Excelファイルによる調査票にて各法人から教育研究データを提供いただいております。

(2) 第4期中期目標期間においては、「データ分析集」の指標の精選及び「入力データ集」の廃止による調査項目の削減のほか、「データ分析集」のシステム再構築の検討を進めています。第3期中期目標期間においては、「データ分析集」及び「入力データ集」に利用する教育研究データを各法人から収集する際に、Excel形式の調査票への入力を依頼しました。第4期中期目標期間においてどのような入力形式の採用が望ましいか、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。



(3) (2)の設問について、a・b・cの選択肢以外に入力形式のご希望がありましたら、以下にご記入ください。

特にありません。
Web画面への直接入力形式とする場合は学内決裁等の便宜上、一時保存機能やPDFファイル出力機能を整備することが望ましい。
特になし
aの形式で、Web上で一時保存等が可能なもの、データによって、CSVファイルかExcelファイルかを選択できるようにしていただきたい。
そもそも「入力データ集」については、実際の評価に使用する項目を精選のうえ、各大学から収集していただきたい。不要と思われる項目が多数あり、大学にとっては過度に負担がかかったと思われる。
入力形式について、大学の負担という観点から補足させていただきます。評価担当から学内の関係部署に展開、集約するにはExcelファイルによる入力がやりやすいと思われます。また、上記理由により、Web入力を採用する場合であっても、補助様式としてExcelファイルをご提供いただけますと幸いです。
細かい点の修正等少ないデータであれば、webが便利だが、大量のデータをweb入力するのはかえって手間がかかると考えます。また、CSV形式では、データの提出方法としては良いが、データの作成が困難だと思うので、エクセル等で入力用の書式を別途作成いただき、そこに入力したものをCSVで出力し、機構に提出する形式が良いのではないのでしょうか。
データ項目を厳選し、今よりも量とエクセルシートの横幅を抑えられるのであれば従来どおりの形式で構わないとも考えます。
現状のExcel形式のアップロードとしつつ、ファイル数を大幅に削減していただきたい。
本学ではIRシステムによりデータの吐出しはもちろん成形まで完了できるが、web画面への入力やExcelファイルによる指定様式だとそこに転記する作業が生じるため、同様の大学が多い場合は様式不問やcsv取込等の対応を可能にしていきたいです。
なし
・調査票のファイル数が多く入力にとても時間がかかったので、入力作業が簡便にできるようにしていただきたい。(可能かどうかかわからないが、Excelファイルによる入力形式が継続される場合は、部局ごとのフォルダをなくして、指標別のファイルに全組織分のデータを入力できるとありがたい。)
・ファイル共有にて全法人分のデータをExcelでダウンロードでき、とても参考になったので全法人データのダウンロード機能はぜひ残していただきたい。
特になし。
なるべく簡素な形式でのデータ入力作業になるようにしていただきたい。
調査票について、セルの結合などは極力しないようにしていただきたい。
調査票のエクセルについて、結合したセルを使用しない様式にしてほしい。

(4) 今後のシステム再構築に向けて、ご提案・ご意見がありましたら、ぜひ以下にご記入ください。

特にありません。
セルの結合などがあると大学としても分析に使用しづらいので、CSVの形式で作成・アップロードできるようなシステムを検討していただけるとありがたい。
学校基本調査の積極的な活用等によって調査項目の大幅な削減を望みます。
いずれの入力形式が採用された場合も、大学側で作業がしやすい様式として欲しい。
・国立大学教育研究評価委員会において現況分析単位との整合性の確保等の方向性も検討されていたようだが、そもそも現況分析における教育面と研究面の評価単位の違いや、教教分離に対応できていないうえ、例えば附属病院や、微小な学内組織に(も)所属する教員の研究業績の取り扱いなど、単にデータの区分を現況分析単位に合わせれば良いという単純な話ではないと考えられる。
・データの定義など、完全に一義的に解釈できることはなく、すべての法人のデータを公平に評価するのは不可能なのではないか。
・結局大学側で余計な補足説明が必要となり、全体として、負担のみ過大な、無駄な評価と考えられる。
収集するデータの定義の解釈が、法人ごとに異なるような調査項目を厳選して設定し、可能な限り評価の公平性が担保されるようなシステムを構築いただきたい。
・従来のExcelファイルに入力する調査票について、学校基本調査に準じた項目のある調査票については、引用入力するのではなく、各大学が提供している学校基本調査XMLファイル等を活用し、機構側で転記する仕組みにしてほしい。
・システム再構築とは直接関係ないが、「データ分析集」に利用する教育研究データを各大学から収集する場合、その依頼時期を予め一定期間(毎年〇月～〇月)に決めてほしい。
Web画面へのデータ入力をどうしても行わなければならないのであれば、入力後にミスがないか確認したいので、入力したデータを一括でExcelファイルなどに出力できる機能を付けてほしい。
各担当部署に依頼しデータを収集する作業上、各担当部署への展開をしやすいExcel形式による調査票が使い勝手が良いため、今後も残していただきたい。
学校基本調査で回答しているデータについては、予め反映いただくか、回答不要としていただきたい。
システム再構築が、各大学の経済的負担の増加にならないよう、ご配慮願います。
他大学の状況を知ることができるので、今後も加工しやすい形でデータの提供を続けてほしい。
・組織登録票によらず、大学側で随時組織の変更ができるようにしていただきたい。
・組織登録は大学の考えもあるが評価単位でもあるため、現況分析の状況を踏まえてから登録するようにさせていただきたい。
データの継続性等を考慮し、既にご提供いただいているデータ分析集をベースに、今年度からも本学においてデータを更新し自己点検・評価で活用することとしている。今後の評価業務を効率的に行うため、早急に必要データや定義等を示していただきシステムの再構築を完了させていただきたい。
CSVデータは、学部・研究科別のシートとせず、可能な限り1つのシートとなるようご配慮いただきたい。
データ分析集の実際の活用状況や必要性(他に似たような調査等が無数にあります)、各大学のIR機能やIRコンソーシアム等の充実も考慮して、廃止を含めた検討をしてもよいかと思います。

特になし
調査票の調査項目は他の省庁等の調査を活用し、他の省庁等の調査と重複のない範囲としていただきたい。
一部大学の入力データに不正確なデータが見受けられた(入学定員が全国大学一覽と整合していない等)。
データ分析集及びデータ入力集を元に他大学との比較分析を行う際に、正確な分析が困難となるため、収集データの定義の明確化及び整合を確認する仕組みがあれば、より活用できるデータになると思われる。
・出力されるデータ形式が経年変化を追いやすいような形式である、データの活用がしやすいと思う。
・教育研究評価に使用するデータの調査票については、対象項目が多く、かつほとんどの項目で学部・研究科等の単位毎に回答であったため、負担が大きかった。学校基本調査等の他調査との重複項目を削除し、重要指標を厳選していただくことを希望する。
なし
・データ分析集等の見直しについては、令和4年5月25日開催の国立大学教育研究評価委員会(第67回)において、ワーキンググループにおける検討状況の報告があって以降、およそ1年近く国立大学法人に対して通知等が行われていない状況という認識でいるが、現在のシステム再構築の状況について、全法人に対して何らかの形での共有をお願いしたい。
調査票の各項目について、学校基本調査から引用可能な箇所は自動反映もしくは入力不要にならないでしょうか。また、調査票の種類(員数・実績・混在)において、同年度のデータを員数と実績で2度提供せずにすむようにできる事が望ましい。
分析データ集並びに入力データ集のExcelファイルの数が膨大であり、かつ、修正が必要な設問(値の入力漏れや異常値の判断)の把握に負担を感じているため、負担軽減となるよう検討いただきたい。
「データ分析集」及び「入力データ集」に利用する教育研究データの提供については、法人側における多大な負担となっているため、文科省で収集している情報を活用いただく等の検討を是非お願いしたい。もし第4期も法人からのデータ提供を求める場合は、簡素化についてご検討いただき、出来る限り各法人に負担のない形を構築いただきたい。
評価の都度データを収集するのではなく、研究活動等状況調査等、各種調査のデータを活用するなどして、二度手間を避けていただきたい。
貴機構の教育研究評価に関するデータ収集以外のシステムにも言えることだが、システム内の階層が多く、全体として操作が煩雑である。ダウンロード・アップロードが直観的にできるシステムに変更いただきたい。
大学の規模や事情が不明で、単に数字を並べられても活用しづらく、安直に資料を組み合わせると他大学と比較し分析するには情報が少ない(例えば、休学者は在籍者数の何割か、休学理由はポジティブかわからない)ため、調査項目を厳選し、システム不用にしてはどうか。
データの入力・確認がしやすいフォーマットにして頂きたいと思います。
「データ分析集」のシステム再構築の前提として、評価者は「データ分析集」に収録されたデータをどのように評価に利用するのか、さらには関係する評価基準等を予め法人に明示していただきたい。
調査項目数が非常に多く負担が大きいため、学校基本調査と重複する調査項目の削減等、改善を希望する。
必要となるデータの精選
提出データについて、可能な限り、他の調査物で回答を求められるデータと、定義や基準日を統一していただきたい。
第3期と同様に他大学と学系別の分析ができるようにしていただきたい。
「データ分析集」の指標の精選及び「入力データ集」の廃止による調査項目の削減について、システム再構築の際に引き続きさらにご検討をお願いいたします。

問5 達成状況報告書の作成作業全般について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

定量的な指標の取扱いについて、『中期計画における定量的な指標が達成できなかった場合は、4年目終了時評価結果を変えうる可能性があることから、顕著な変化があったとして、「達成できなかった点」に達成できなかった内容、理由を簡潔に記述していただく必要があります』ということでしたが、このルールは最終年度評価に当たって急に示されたという認識です。指標も含めて総合的に中期目標・中期計画の自己評価をするつもりでいたところ、数値未達は有無を言わさず達成できなかったことになるという基本ルールに納得感はありませんでした。
評価のルール、記載のルールについては、中期目標期間の1～2年目などに示していただくとう助かります。
特にありません。
・達成状況報告書のつくりが分かりにくい。文科省に提出する業務実績報告書のような一覽形式にするか、文科省提出版と様式を統一してはどうか。
・大項目、中項目、小項目という表現が分かりにくい。一般の人が分かるような表現にしてはどうか。
・全般的に重複して記載すべき箇所が多いため、記載項目は厳選してほしい。(例)「特記事項」と「実施状況」
第4期の評価の実施要領などを早期にお示しいただけると早く作業に取り掛かれるため、ご検討いただきたい。
文科省の実施する業務実績評価と教育研究評価とで、可能な限り報告書様式や記載要領を統一していただきたい。
国立大学法人評価という一つの枠組みの中で実施しているものでありながら、文科省とniadで様式が大きく異なる現状では、一般の方から見ても分かりづらいと考えます。
達成状況報告書に記載する特記事項について、【優れた点】と【特色ある点】を統合していただきたい。法人側が【優れた点】として提出したものが評価結果では【特色ある点】として判定されることもあり、法人の自己評価の結果としての【優れた点】と【特色ある点】の区別は、判定結果では意味をなしていないと感じます。
単純に【特記事項】としてまとめたうえで、判定結果において【優れた点】【特色ある点】として区別いただいた方が、法人側の納得感も高くなると考えます。
顕著な変化には該当しないが、特色があると考える取組みを実施した場合、それが特色ある点として取り上げられる可能性があるのかどうかを明確にしていきたいです。
第3期中期目標期間終了時評価における達成状況報告書の作成に当たっては、どの中期計画が「顕著な変化」に該当するかの選定に苦労した。第4期も同様の方法(顕著な変化のみ評価対象とする)で評価を実施予定であれば、第3期の評価結果を参考に、どのような事例を「顕著な変化」(特に評価が上がったもの)と認定したか、事例集のようなものを作成し、目安をお示しいただきたい。

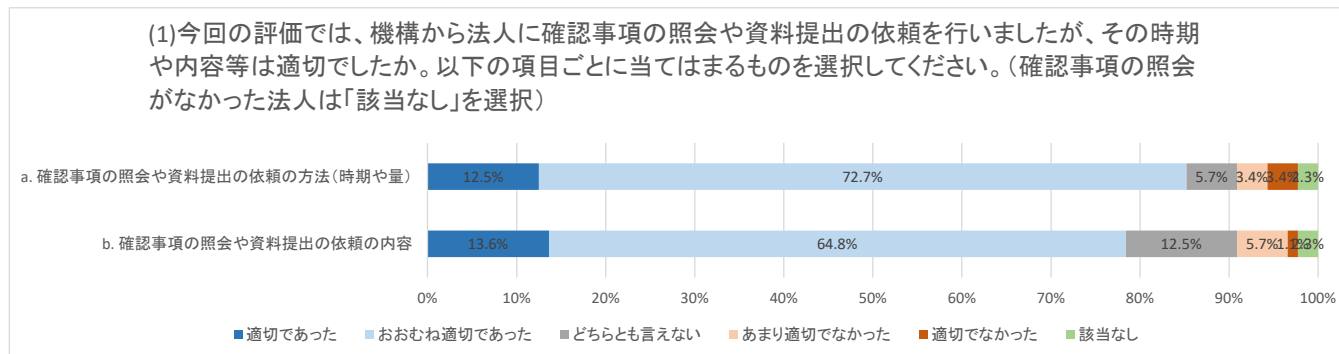
<p>・作業のもととなる実施要項等は法人評価の作業に大きく影響するので、早期に決定のうえ公表していただきたい。</p> <p>・根拠資料は一覧表のみ公表し、個別の根拠資料は評価委員及び機構事務局限りとした方が効率的ではないか。</p>
<p>・記載内容が重複する所があり、非効率的である。</p> <p>・優れた点、特色ある点の判断基準が非常に分かりづらかった。</p> <p>・業務実績報告書と達成状況報告書の様式が異なり、作業がしづらい。第4期法人評価実施要項でも記載があったが、様式を統一すべきである。</p>
<p>文部科学省へ提出する「業務の実績に関する報告書」と様式をそろえてほしい。(項目の統一、西暦・和暦や全角・半角の指定など)</p> <p>・「顕著な変化」があった中期計画ごとに2020年度、2021年度の実施状況の記載と優れた点や特色ある点の記載について重複する部分が多かった。優れた点や特色ある点は最終的には評価委員の方々の判断になるため、大学ではこの欄を作成せず、2020年度、2021年度の実施状況の記載のみでよかったように思われる。優れた点や特色ある点の記載欄を無くすかわりに、実施状況の欄での記載事項が「優れた点」「特色ある点」に該当するかわかるようマークする(例えば、優れた点は◎、特色ある点は○の記号を付す)など工夫することが考えられる。</p>
<p>・「戦略性が高く意欲的な目標・計画」は、計画どおり実施できていなくとも、プロセスや内容等を考慮し、判定することとなっていた。一方で、達成状況報告書の作成にあたってはページ数の目安が設定され、プロセスを十分に記載することができなかった。このため、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」については、他の目標・計画と異なるページ数や文字数を設定するなど工夫が必要と思われる。</p> <p>評価作業の負担軽減のため、業務実績報告書と様式の統一を行ってほしい。</p> <p>業務実績報告書と様式を統一していただきたい。</p>
<p>特になし</p>
<p>4年目終了時評価結果を変えようとする顕著な変化を記述する際に、その記述が評価にどのように作用しうるのかが分かりにくかったので、書きづらい面もあった。</p>
<p>なし</p>
<p>一法人複数大学の場合、法人と大学との間で経営と教学が分離される中で、法人としての教育研究の取組、大学間で共同・連携した教育研究の取組、各大学独自の教育研究の取組などがあり、その間で重なる部分もありえる。また、一法人複数大学によらず、中期計画間でも関連性が強いが故に一概に切り分けられない取組状況もありえる。その結果として、中期目標・中期計画、定量的な指標一覧の記載の仕分けが不明確になり、一般社会には分かりにくい内容にもなり得ることから一法人一大学を想定した書式については検討の余地があるように感じる。(設問24と同様の意見)</p>
<p>中期目標の特記事項(優れた点、特色ある点、達成できなかった点)へ記載する内容と、中期計画の実施状況への記載内容が重複する部分が多くあり、特記事項への記載と実施状況への記載の書き分けが困難な場合があった。</p>
<p>特になし。</p>
<p>達成状況報告書の小項目(中期目標)に対する特記事項について、記載内容が中期計画の実施状況に記載した内容の要約版にしかならない。4年目終了時評価の際の検証アンケートにも記載したが、「中期計画の達成状況により中期目標の達成状況を判定する」形式から言えば、「小項目(中期目標)に対する特記事項」は報告書を作成する側に二度手間を強いるだけにしかならず、記載は不要と考える。</p>
<p>顕著な変化の「顕著」とはどの程度か、表現があいまいで判断し難いところがあった。実績報告書は大学の自己評価に基づき作成されているため、適正な自己評価を行い、予定どおりの成果と判断した大学より、顕著とは言い切れなくても記載して提出する大学の方が、評価者に達成状況報告書を読んでもらう機会と評価される可能性があり、自己評価が甘い大学にメリットが生じている。</p> <p>本学では中期目標・中期計画の達成状況を学内で把握するため、顕著か否かにかかわらず2年間の実施予定の成果を求めたため、それでよいのではないか。又は、自己評価の甘さを機構が指摘するか。</p>
<p>どのようなものが中期目標・計画の達成状況の「顕著な変化」に該当するのか、事前の研修会、Q&A等で説明されたが、必ずしも具体的でなく(特に中期目標)、達成状況の「顕著な変化」に該当する中期目標・計画の抽出が容易ではなかった。そこで、第4期も今回の作成作業が踏襲されるならば、より具体的にどのようなものが中期目標・計画の達成状況の「顕著な変化」に該当するか提示いただきたい。</p>
<p>特に特筆する点のみを報告する形式は、作業負担が少なく良かった。</p>
<p>作成に当たっては、関係者の共通理解を図る必要があるため、可能な限り「具体的な記入例」を提示していただきたい。</p>
<p>中期目標・計画の達成状況の「顕著な変化」の記載について、頁数の上限が1頁を目安とされていたため、複数の実績を記載する場合、各項目において、優れた点や特色ある点を十分に記載することができなかった。</p>
<p>作業の効率化、合理化に資する取り組みをさらにご検討お願いいたします。</p>

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会・ヒアリングについて

(1) 今回の評価では、機構から法人に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。(確認事項の照会がなかった法人は「該当なし」を選択)

	適切であった	おおむね適切であった	どちらとも言えない	あまり適切でなかった	適切でなかった	該当なし
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量)	12.5%	72.7%	5.7%	3.4%	3.4%	2.3%
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	13.6%	64.8%	12.5%	5.7%	1.1%	2.3%



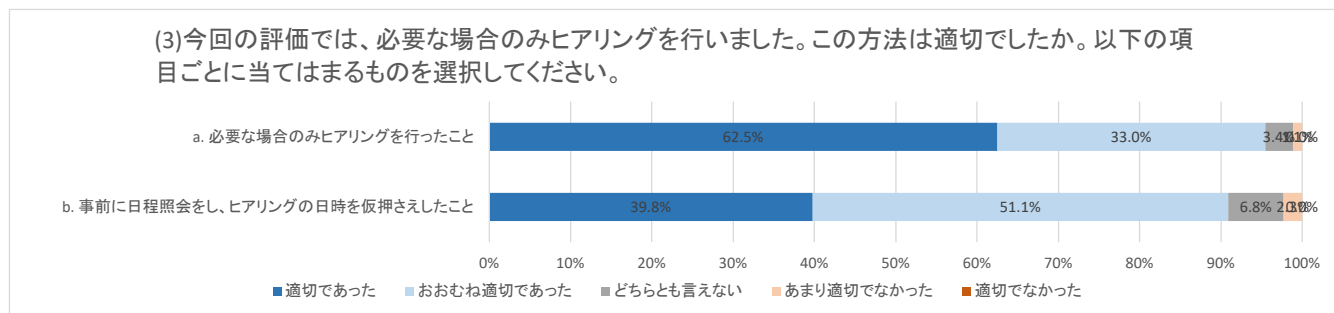
(2) 確認事項の照会について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

評価結果(案)の提示について、学内会議への付議の都合上、文部科学省となるべく近接したスケジュールで行っていただけますと幸いです。
数量的指標が未達成の中期計画について、その理由や代替措置等を実績報告書に記載したものの、確認事項において「当該中期計画の数量的指標の達成状況について自己評価を説明願います」との照会がありました。本学の説明が不十分であったのか、当初の説明に対する踏み込んだ質問であったのか、照会の意図を適切に読み取ることができず、貴機構の事務担当者へ確認を行った上で回答したという経緯がありました。確認事項に対し適切な回答を行うためにも、質問の意図が分かるようにご配慮いただけると幸いです。
特にありません。
特になし。
定量的な指標に対して、「達成状況の自己評価を説明願います。」という確認事項があったが、達成状況報告書内で「達成できなかった点」として自己評価しており、確認事項において、何を回答すれば良いのかわからないため、確認事項の意図が分かりやすい内容として欲しい。
該当なし
ヒアリングの日程調整時期からヒアリング実施までの期間がすこし長いように感じた。また、ヒアリング実施の有無について、もう少し速やかに決定して欲しい。
・確認事項への回答期限が短すぎる。 ・質問内容をもう少し明確にしてほしい。(質問が抽象的すぎて、貴機構が何を確認したいのかわからなかった。)
本学側の記載が不十分だったところもあるかもしれないが、文章をしっかりと読んでいただけていないのではないかなと思える質問がありました。事務的な確認事項は、数値等を細かく確認していただきました。
学内への照会后、内容の確認を行うことになるため、通知から提出までもう少し時間を空けていただきたい。

なし
照会内容について、確認が必要となる場合があることや、10月12日依頼の10月26日締切として依頼をいただいたが各法人での決裁等を考慮し、もう少し余裕のあるスケジュールとなることが望ましい。
確認事項で照会を受けた内容が、達成状況報告書に記載済みの内容と重複していた、既に提出済みの資料の再提出を求められたケースがあった。事務的に確認してきたようだが、照会する前に報告書の記載や別添資料の有無を確認した上で照会を行っていただきたい。
「達成できなかった点」や「実施状況」は、達成状況報告書に記載しているにもかかわらず、改めて、「定量的な指標で達成できていない点」について質問があったが、評価者側は、本学の達成状況報告書を理解された上で確認事項の照会等をされているのか疑問に感じた。例えば、評価者側からは、「当該定量的な指標に対する達成状況の自己評価を説明願います。」のような、具体性に欠けた定型な質問であったため、既に提出している報告書のどの内容の情報が不足しているのか判断しがたかった。そのため、今後、改善に向けて取り組むにあたって、得られる示唆もなかった。
達成状況報告書の「達成できなかった点」を抜粋して評価結果に転記するのではなく、受審者に必要な情報を実施状況に追記させ、確認事項の照会等の際に必ず整理するなど、実施方法を変更してはどうか。
確認事項の照会に際して、その照会内容が具体的にどのように評点に影響するのかを法人にお知らせいただきたい。お知らせ頂ければ、それに応じた回答の仕方ができると思われる。
特になし

(3) 今回の評価では、必要な場合のみヒアリングを行いました。この方法は適切でしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	適切であった	おおむね適切であった	どちらとも言えない	あまり適切でなかった	適切でなかった
a. 必要な場合のみヒアリングを行ったこと	62.5%	33.0%	3.4%	1.1%	0.0%
b. 事前に日程照会をし、ヒアリングの日時を仮押さえしたこと	39.8%	51.1%	6.8%	2.3%	0.0%



(4) ヒアリングを実施した法人に対してお伺いします。ヒアリングについて、実施方法や質疑応答の内容、オンライン実施による支障の有無等を含めて、ご意見がありましたら以下にご記入ください。

ヒアリング実施無しのため特にありません。
該当なし
特になし。
特になし
ヒアリングを実施された法人ではないが、ヒアリング実施の有無について早い判断をしていただきたかった。年末まで出席いただく理事・副学長等の予定を抑えていたため、苦情があったことから、文部科学省と同じスケジュール感で対応していただきたい。
実施していない
ヒアリング実績なし。
実施方法等はおおむね適切であったが、ヒアリング有無の連絡は1か月前にはいただきたい。

問2 意見の申立てについて

意見の申立ての結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

今回、制度上では小項目で一段上の「中期計画を達成し優れた実績を上げている」と評価されることが可能だったため、意見申立てを行った。しかし、中期計画で「優れた点」として取り上げられた取組が「優れた実績を上げているとまでは言えない」との理由から、意見申立ては認められなかった。この部分のルールが明確でないように感じられたので、もし一定のルールを定めることができれば、お願いしたい。

本法人は意見申立てをしていませんが、意見申立ての結果を見ると、対応としては「総合的に判断した」という定型文が多く、「意見申立てをしても、どうせ変わらないのではないか」との思いを持ちかねないかと思います。

実際、評価を覆すことは難しいことと理解していますが、国立大学法人でPDCAサイクルが回るような助言的なコメントを付していただくことが望ましいと考えます。

特にありません。

特になし。

申し立てに対する回答は可能な限り丁寧なものをしていただければ幸いです。

該当なし

表面的な数値の達成度による評価ではなく、より内容を理解した評価をしていただきたく思います。

「原案の通りとする」と評価者が判断した理由(根拠)が評価結果内ではわからない。もう少し詳しく回答いただきたい。

特になし

意見の申立ては行っていません。

○第3期終了時評価に関する意見申立てについて、「評価作業マニュアル」に基づき判定の目安や優れた取組等を根拠として判定変更の申し立てをしたが、「総合的に判断している」ことや「優れた実績を上げているとはいえない」として原案のとおりと判断された。判定の数値が「目安」を超えた場合でも【3】から【4】に変わらない場合の判断基準が不明確(「優れた点」や「特筆すべき点」が複数点あっても「優れた実績」に当たらないのはなぜか、など)であるため、公正性、透明性の確保の点でも、異議申立て結果を公表するだけでなく、大学に対する回答ではもう少し丁寧なご説明をお願いしたい。原案から意見申立てにより判定が変わったという例はほとんど見られず、各大学への回答内容も定型的文章になっており、意見申立ての意義が希薄であるという印象を受ける。

今回、本学は意見の申立ての結果を国立大学法人評価委員会総会資料で知ることになったが、申立ては、大学改革支援・学位授与機構に行ったのであるから、大学改革支援・学位授与機構から先に通知があるべきだと考える。

本学では、達成状況に関する評価結果において、小項目の評価結果が4年目終了時評価結果から下がったため、今後の改善・向上につなげるために意見申立てを行った。評価結果を受けて、それぞれの機関が活動の改善・向上につなげることができるよう、より詳細に回答いただけるとありがたい。

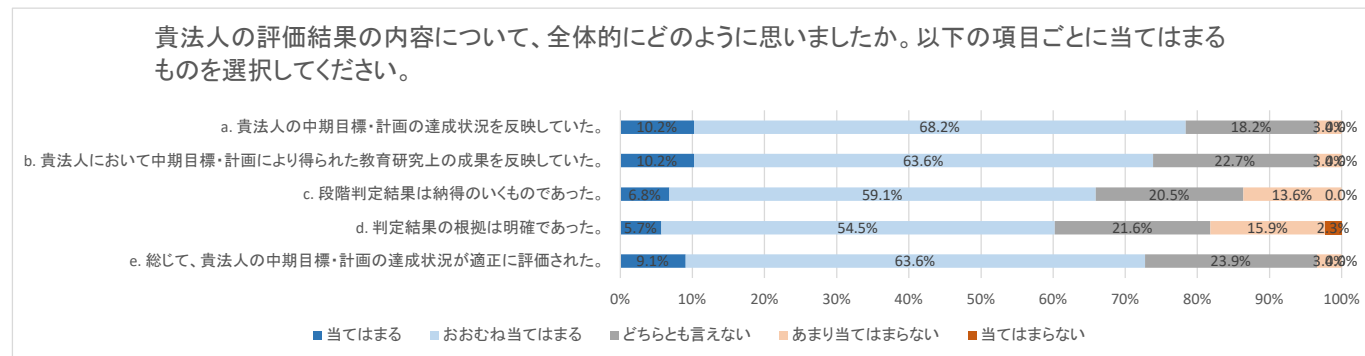
申し立てをしていない

達成状況報告書に記載した5年目(令和2年度)及び6年目(令和3年度)の数値が評価結果(原案)に未反映であったため、記載いただくよう申し立てたが、反映されていなかった。各法人からの回答が反映されているかどうか、また、反映されていない場合の理由について、国立大学法人評価委員会で諮られる(機構から文科省に評価結果(原案)を提供する)前に各法人が確認する期間を設けていただきたい。

問3 評価結果(評価報告書)について

貴法人の評価結果の内容について、全体的にどのように思いましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	当てはまる	おおむね当てはまる	どちらとも言えない	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. 貴法人の中期目標・計画の達成状況を反映していた。	10.2%	68.2%	18.2%	3.4%	0.0%
b. 貴法人において中期目標・計画により得られた教育研究上の成果を反映していた。	10.2%	63.6%	22.7%	3.4%	0.0%
c. 段階判定結果は納得のいくものであった。	6.8%	59.1%	20.5%	13.6%	0.0%
d. 判定結果の根拠は明確であった。	5.7%	54.5%	21.6%	15.9%	2.3%
e. 総じて、貴法人の中期目標・計画の達成状況が適正に評価された。	9.1%	63.6%	23.9%	3.4%	0.0%



問4 評価方法や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

達成状況の判定に関し、各評価者が実施した評価について、グループリーダー、サブリーダーによる調整をしっかりといただけると助かります。
特にありません。
特になし。
第3期の評価の仕組み上、中期計画において高い評価を得ても、小項目において高い評価に繋がらないことがあった。4年目終了時評価において、中期計画では高い評価を受けている(達成している)計画に対して、評価結果を踏まえ大学として、残り2年で何に取り組みれば、小項目において高い評価に繋げることができるのか分からなかった。評価方法は、中期計画の達成が、中期目標の小項目や大項目の評価に反映される仕組みとして欲しい。
・判定が「重大な改善事項」～「5」の6段階で付されるが、文部科学省から運営費交付金(法人運営活性化支援分)配分の際に示される計算の際は「1」～「6」で表記されており、その差異のため内外への説明に苦慮している。「1」～「6」に統一するなどしていただきたい。 ・4年目終了時評価の際に「優れた点」などとして「令和3年度実施予定の～」のような事項が挙げられていて、6年目終了時評価結果にもこの表現がそのまま記載されているのは違和感がある(予定どおり実施した内容を「顕著な変化」として6年目終了時に記載することはない)。例えば大学に単純にYesかNoで答えるだけの(箇所の変更等があればその修正を含む)事実確認をして、6年目終了時評価結果では“6年目終了時”の実際に合わせたものにすべきではないかと思う。
ヒアリング日時の仮押さえの期間が長期に渡ったことで関係者に支障が生じました。ヒアリング実施の有無は、開催予定日の2か月前程度前には知らせていただきたいです。
小項目の判定において、「特筆すべき実績」「優れた実績」の判定基準が不明確であるため、「優れた点が2つ以上認定された場合は、優れた実績とする」等、ある程度は機械的に判定される評価方法にするなど、評価結果の公平性、納得性の向上に配慮いただきたい。
「中期計画の達成が見込まれていたにもかかわらず、明らかに新型コロナウイルス感染症の影響によって、当該中期計画に含まれる定量的な指標について中期計画を達成することができなかったと認められる場合は、そのプロセスや内容を総合的に評価することとし、直ちに「十分に実施しているとはいえない(【1】判定)」とは判定しない。」という評価方法によって、4年目評価時に「【3】中期計画を実施し、優れた実績を上げている」と評価されていたものが、新型コロナウイルス感染症によって中期計画が達成できなかったため、「【2】中期計画を実施している」に引き下げられてしまった。 「直ちに「十分に実施しているとはいえない(【1】判定)」とは判定しない。」ではなく、「直ちに評価の引き下げを行わない。」などとしていただいたほうが良かったと思う。
表面的な数値の達成度による評価ではなく、より内容を理解した評価をしていただきたく思います。また、自己点検・評価の結果と貴機構による評価が評価が異なった場合、ヒアリングで確認や説明をしていただきたく思います。
・優れた点、特色ある点として報告したが、左記に該当しないと評価委員が判断した理由についても評価結果(案)受領時に詳しく記述してほしい。 ・(NIADホームページ掲載について)正誤表を確認しながら、6月末時点の達成状況報告書を確認するのは非常に煩わしい。業務実績報告書と同様、評価結果(原案)時に字句修正した報告書を提出できるようにすべきである。

<p>機構が示した優れた点及び特色ある点に抽出される判断基準に対して、評価委員の判断が不明瞭だったと思われる。</p> <p>評価において、数値目標達成の可否に重点が置かれすぎており、目標達成に向けたプロセスに対する評価が軽い印象があった。</p> <p>最終的な評価結果には4年目終了時で取り上げられた事項(顕著な変化なし)も掲載されますが、その場合は数値や年度等の最低限の更新はしてもよかったのではないかと思います。顕著な変化があり取り上げられたところは令和3年度未までの実績になっているのに対し、それ以外は4年目までで止まっているので、一般的には違和感があるかもしれません(評価方法自体に異論はありません)。</p> <p>各大学の評価結果を自由に組み合わせて大学間で比較できるサイト(データベース)を作成してほしい。</p> <p>特になし</p> <p>1)現況分析の根拠となる研究業績判定について、判定結果の分布や「卓越」の判断基準を開示すべき(今後の改善に資するため)2)現況調査表の加算を「研究」だけでなく「共同利用・共同研究」にも適用すべきではないか(大学共同利用機関法人としての大きなミッションであるため)</p> <p>○評価結果において、例えば、法人が「【3】優れた実績を上げている」と自己評価とした中期計画について、機構が「【2】実施している」と評定する等、法人が行った自己評価と、機構が行う評価で評定が変わる場合には、何故違う評定を行ったのか、その理由を記載いただきたい。また、その際には、「さまざまな観点から総合的に判断をした」等の曖昧な表現ではなく、どのような成果を上げていれば、法人の自己評価どおりの評定となっていたのか等を具体的に明示していただきたい。そうしていただかない限り、機構が行う評価作業が「社会への説明責任」を十分に果たしているとは言えないと思われる。現状のような評価結果のフィードバックでは、評価結果を踏まえた法人の教育研究活動の改善等にも繋がりにくいと思われる。</p> <p>○数値目標を掲げた計画については、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」であっても数値目標を達成していないことを理由として評価が下がる事例(第3期終了時・岡山大学)や、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に指定されていないければ、取組や他大学と比較した状況にも関わらず数値を達成していないことをもって評価が下がる事例(第3期終了時・愛知教育大学)があった。数値が基準であることは理解できるが、プロセスを考慮しても評価を下げることに對して、数値以外の相当な理由が評価者から提示されなければ、大学が意欲的な指標を立てることに消極的になり、意欲的な指標を達成するために大胆な取組を行うモチベーションの低下につながるのではないかと考えられる。また、意欲的な計画(第4期では意欲的な指標)の認定については、大学側の申請がすべて認められるものではなく、大学にとって意欲的な目標値であっても認定外となった場合にはプロセス等を考慮しないと一律に判断されるのであれば、やはり評価は大学の取組に対する積極性を削ぐようなものであると考える。</p> <p>なし</p> <p>・一法人複数大学の場合、法人と大学との間で経営と教学が分離される中で、法人としての教育研究の取組、大学間で共同・連携した教育研究の取組、各大学独自の教育研究の取組などがあり、その間で重なる部分もありえる。また、一法人複数大学によらず、中期計画間でも関連性が強いが故に一概に切り分けられない取組状況もありえる。その結果として、中期目標・中期計画、定量的な指標一覧の記載の仕分けが不明確になり、一般社会には分かりにくい内容にもなり得ることから法人一大学を想定した書式については検討の余地があるように感じる。(設問17と同様の意見)</p> <p>・現況分析について、顕著な変化があった場合は達成状況報告書に記載するよう指示がありましたが、現況分析(教育)・(研究)の質や水準を評価機関として担保できているのか疑問に感じた。</p> <p>多くの中期計画で本学の自己評価と評価結果が一致しておらず、その理由について明確に開示していただきたい。また、小項目における特色ある点の数が4年目終了時評価時よりも増加していたとしても、必ずしも小項目の評価結果につながっているわけではなく、どのような観点から特色ある点が取り上げられているのか明示していただきたい。</p> <p>業務運営等に係る評価方法と異なる(小項目の設定、独自番号の設定、評価の段階、様式等)ことにより、評価制度の理解が難しく、対外的な説明も難しい。出来る限り、わかりやすい評価方法にしていただけると有難い。</p> <p>最終年度評価において顕著な変化があったとして申請した事項のうち、顕著な変化と認められなかった項目について、理由の説明が不足していた。</p> <p>「8(1)d. 達成できなかった点を判断して記載する。」は、たとえ4年目終了時に記述した「2020年度、2021年度の実施予定」が達成できていなかったとしても、定量的な指標が無い又は指標として設定しがたいものは法人が記述をしなければ「達成」の評価となってしまうため、記述したために判定が2となる、改善を要する点になるおそれがあり、公平性に欠ける。</p> <p>・評価(数値)指標について、留学生数等、コロナ感染症による外的な影響がある場合、どのように段階判定がなされたのか、さらに具体的に評価(数値)指標の達成状況をどのように判断し、段階判定に活用したのか、その基準等を含め、明らかにしていただきたい。</p> <p>・17にも記載したように、どのようなものが中期目標・計画の達成状況の「顕著な変化」に該当するのか、特に中期目標について、法人が該当する中期目標を容易に選ぶことができるよう、より具体的にどのようなものが中期目標・計画の達成状況の「顕著な変化」に該当するか提示いただきたい。</p> <p>・4年目終了時評価では、中期計画の達成状況の判定にあたって新型コロナウイルスの影響をふまえた特段の配慮がなされたが、終了時評価においては評価指標の未達を理由に評価を下げられている。4年目終了時終了時には終了時評価を見込んだ評価がなされたはずであり、新型コロナウイルス感染症に関する取扱が変更されるということであれば、後出しにするのではなく、周知いただきたい。また、法人として説明の機会是与えていただきたい。法人として、4年目終了時評価からの顕著な変化について誠実な対応を心掛けており、評価機関にも当然に4年目と6年目の評価について一貫性を持たせる誠実性や説明責任は求めたい。</p> <p>中期目標(小項目)ごとの評価結果について相場感の違いがあり、一貫性が薄い感じを受ける。どのような取り組みが高評価を受けるのか把握しづらい。</p>
--

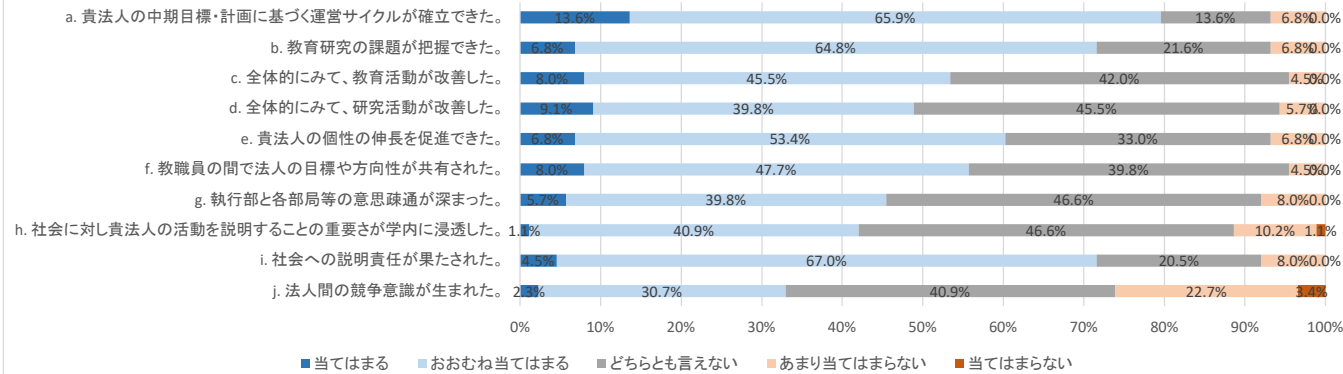
Ⅲ 評価による貴法人での効果・影響について

問1 評価の効果について

中期目標・計画に基づく評価を行うことによって、貴法人において以下の効果や影響が生じた(あるいは今後に生じる)と思いますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。※大学共同利用機関法人は「c.全体的にみ、教育活動が改善した。」の項目について、「どちらとも言えない」を選択してください。当機構で「該当なし」として扱います。

	当てはまる	おおむね当てはまる	どちらとも言えない	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. 貴法人の中期目標・計画に基づく運営サイクルが確立できた。	13.6%	65.9%	13.6%	6.8%	0.0%
b. 教育研究の課題が把握できた。	6.8%	64.8%	21.6%	6.8%	0.0%
c. 全体的にみて、教育活動が改善した。	8.0%	45.5%	42.0%	4.5%	0.0%
d. 全体的にみて、研究活動が改善した。	9.1%	39.8%	45.5%	5.7%	0.0%
e. 貴法人の個性の伸長を促進できた。	6.8%	53.4%	33.0%	6.8%	0.0%
f. 教職員の間で法人の目標や方向性が共有された。	8.0%	47.7%	39.8%	4.5%	0.0%
g. 執行部と各部局等の意思疎通が深まった。	5.7%	39.8%	46.6%	8.0%	0.0%
h. 社会に対し貴法人の活動を説明することの重要性が学内に浸透した。	1.1%	40.9%	46.6%	10.2%	1.1%
i. 社会への説明責任が果たされた。	4.5%	67.0%	20.5%	8.0%	0.0%
j. 法人間の競争意識が生まれた。	2.3%	30.7%	40.9%	22.7%	3.4%

中期目標・計画に基づく評価を行うことによって、貴法人において以下の効果や影響が生じた(あるいは今後に生じる)と思いますか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。※大学共同利用機関法人は「c.全体的にみ、教育活動が改善した。」の項目について、「どちらとも言えない」を選択してください。当機構で「該当なし」として扱います。

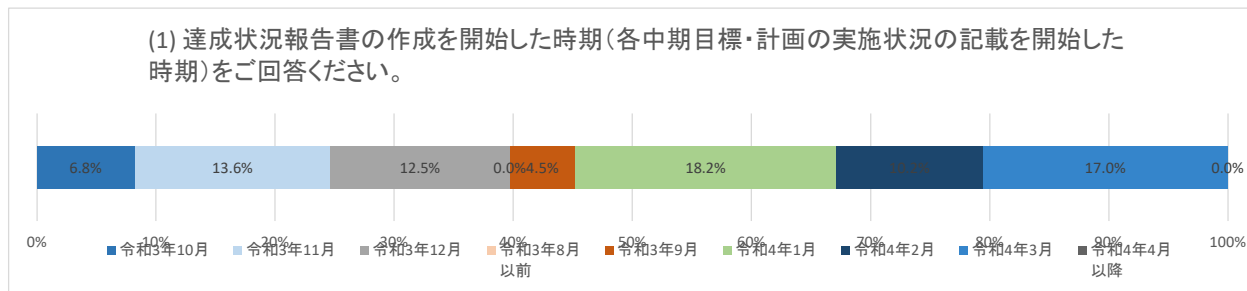


IV 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

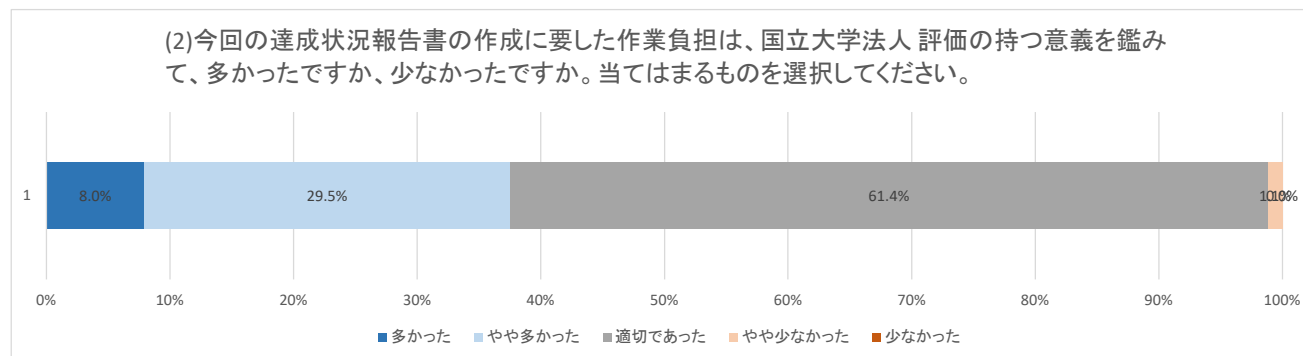
(1) 達成状況報告書の作成を開始した時期(各中期目標・計画の実施状況の記載を開始した時期)をご回答ください。

令和3年10月	令和3年11月	令和3年12月	令和3年8月以前	令和3年9月	令和4年1月	令和4年2月	令和4年3月	令和4年4月以降
6.8%	13.6%	12.5%	0.0%	4.5%	18.2%	10.2%	17.0%	0.0%



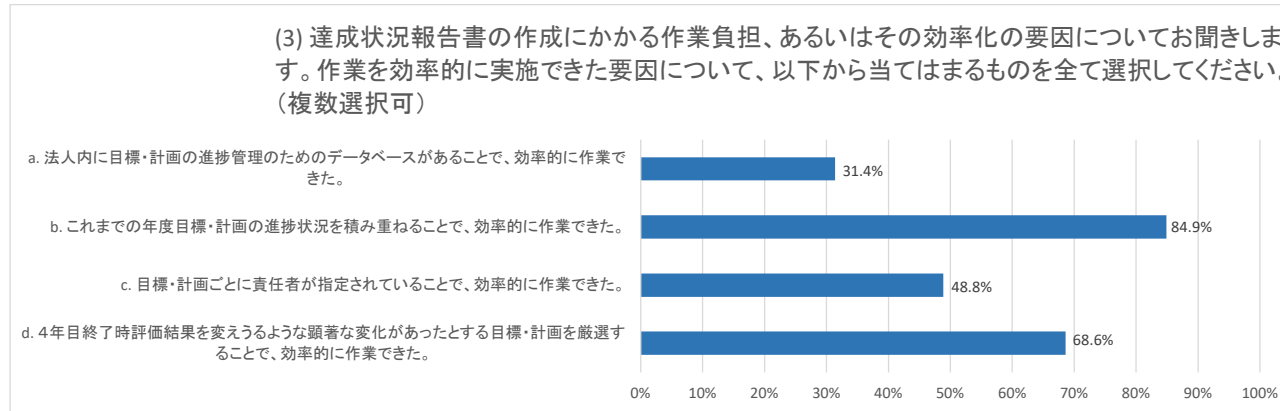
(2) 今回の達成状況報告書の作成に要した作業負担は、国立大学法人 評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまるものを選択してください。

多かったです	やや多かったです	適切であった	やや少なかった	少なかった
8.0%	29.5%	61.4%	1.1%	0.0%



(3) 達成状況報告書の作成にかかる作業負担、あるいはその効率化の要因についてお聞きします。作業を効率的に実施できた要因について、以下から当てはまるものを全て選択してください。(複数選択可)

a. 法人内に目標・計画の進捗管理のためのデータベースがあることで、効率的に作業できた。	31.4%
b. これまでの年度目標・計画の進捗状況を積み重ねることで、効率的に作業できた。	84.9%
c. 目標・計画ごとに責任者が指定されていることで、効率的に作業できた。	48.8%
d. 4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化があったとする目標・計画を厳選することで、効率的に作業できた。	68.6%



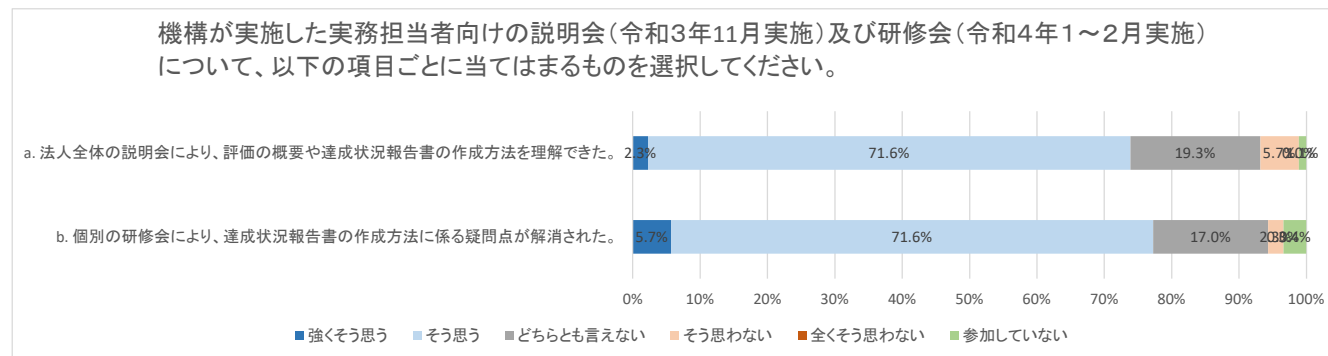
(4) 上記以外に作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください

学内の問題ではあるが、学内の担当部署に原案作成を依頼したところ、部署ごとに評価への理解に差があり、書きぶりに差が生じ、結果、評価担当部署での修正の負担が大きかった、研修や説明会の重要性を改めて痛感している。
内部的な問題であるが、4年目終了時評価の担当者が、引き続き、最終年度評価を担当したため、効率的に実施ができた。担当が変わっていれば、作業にもっと時間がかかったと思われる。
特にありません。
達成状況報告書の作成について「4年目終了時評価結果を変えようような顕著な変化」に限定したことによる作業の効率化はあったが、そもそも「顕著な変化」を厳選するためにすべての目標・計画について改めて状況を確認する必要があったので、その点での作業負担は従前と変わりなかった。
文部科学省とNIADへ提出する報告書の様式が異なることは、学内への説明も2回必要で、作業負担が増える。
「顕著な変化」の選定に当たって、学内の調整に苦慮した。
計画的なスケジュール管理を行うことが出来た。また、学内で毎年評価を行っており、この内容を4年目、6年目の達成状況報告書等の作成に活かすことが出来た。
定量的な評価指標の作成が評価実施前年度に示され、業務量が増加した。(中期目標期間の当初に示すべきではないか。)
学部・研究科等の現況分析については4年目終了時の評価結果を活用することができたため、各研究科の作業負担を減らすことができた。
評価者が評価時に作成した「書面調査シート」の開示を希望した場合、大学機関別認証評価で対応が求められ大学として負担が増加した。希望する場合にどのような対応が増えるのかなど意向調査時に事前に情報を示していただきたい。
各中期計画の実施状況欄に記載した取り組みから優れた点や特色ある点を抽出し、各中期目標の特記事項欄に記載する必要があったため、内容が重複し、記載をする際に負担となった。
実施要項、各種様式、作業スケジュールの公開及び説明会の開催時期を早めてもらえれば、規模の大きな大学でも効率的な作業方法やスケジュールを策定しやすく、負担軽減につながる。
特になし
なし
文部科学大臣から認可の受けた中期目標番号と、達成状況報告書作成時に付された中期目標・計画番号(1-1-1-1 など)が混在したため、学内への説明時に混乱が生じることがあった。
特になし。
貴機構が作成した定量的な指標一覧をもとに指標の確認・提出を求められたが、依頼時期が令和3年11月と時期が遅く、そこから指定された様式に沿って指標に関わるデータを再整理しなくてはならず、実作業が増える結果になった。報告を要するものを追加する場合は早期に様式を提示してほしい。
4年目終了時の評価結果を変えようような顕著な変化があったとする目標・計画を厳選するために、すべての中期計画について、顕著か否かにかかわらず達成状況報告書を作成し確認しているため、各担当者の作業負担は減少したわけではない。評価担当課の確認等は調書の数が減ったため、達成状況報告書と現況調査表との相互確認などの必要がない分については作業負担が減った。
作業を効率的に実施できた要因： ・評価(数値)指標の達成状況を基軸として達成状況報告書の作成を進めたので、作業を効率的に実施できた
・国立大学法人評価6年目終了時評価スケジュールの公表が、令和3年度中となったことで、学内での調整に時間を要することになった。・第3期中期目標期間においては、中期計画を作成した後に評価方針が示されたため、作業負担が多くなった。

問2 機構による説明会及び研修会について

機構が実施した実務担当者向けの説明会(令和3年11月実施)及び研修会(令和4年1～2月実施)について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

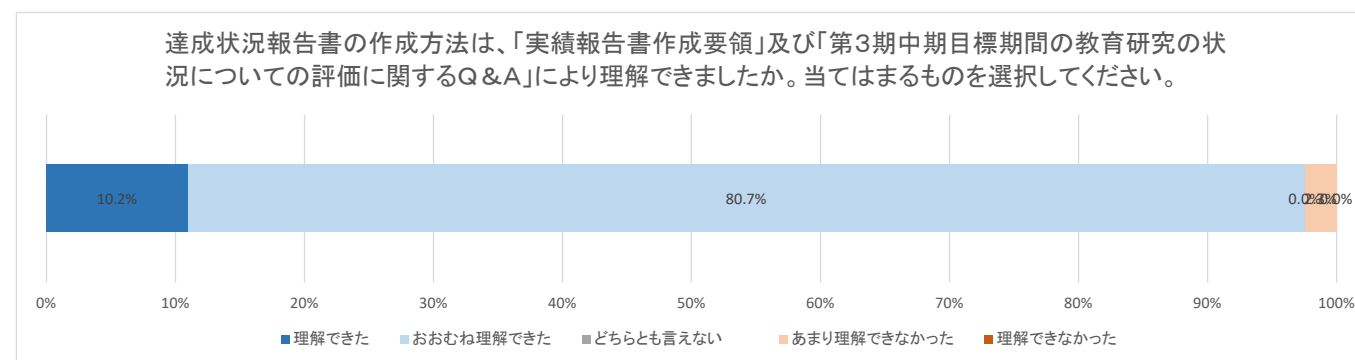
	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	参加していない
a. 法人全体の説明会により、評価の概要や達成状況報告書の作成方法を理解できた。	2.3%	71.6%	19.3%	5.7%	0.0%	1.1%
b. 個別の研修会により、達成状況報告書の作成方法に係る疑問点が解消された。	5.7%	71.6%	17.0%	2.3%	0.0%	3.4%



問3 実績報告書作成要領等について

達成状況報告書の作成方法は、「実績報告書作成要領」及び「第3期中期目標期間の教育研究の状況についての評価に関するQ&A」により理解できましたか。当てはまるものを選択してください。

理解できた	おおむね理解できた	どちらとも言えない	あまり理解できなかった	理解できなかった
10.2%	80.7%	0.0%	2.3%	0.0%



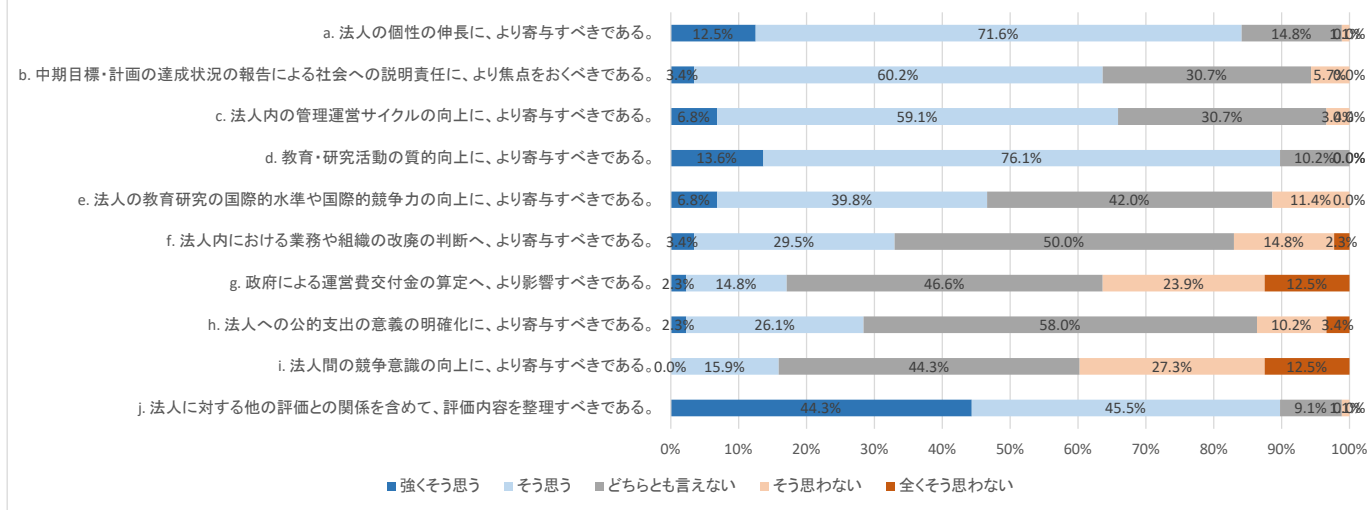
V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

今後の国立大学法人評価の実施目的について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 法人の個性の伸長に、より寄与すべきである。	12.5%	71.6%	14.8%	1.1%	0.0%
b. 中期目標・計画の達成状況の報告による社会への説明責任に、より焦点をおくべきである。	3.4%	60.2%	30.7%	5.7%	0.0%
c. 法人内の管理運営サイクルの向上に、より寄与すべきである。	6.8%	59.1%	30.7%	3.4%	0.0%
d. 教育・研究活動の質的向上に、より寄与すべきである。	13.6%	76.1%	10.2%	0.0%	0.0%
e. 法人の教育研究の国際的水準や国際的競争力の向上に、より寄与すべきである。	6.8%	39.8%	42.0%	11.4%	0.0%
f. 法人内における業務や組織の改廃の判断へ、より寄与すべきである。	3.4%	29.5%	50.0%	14.8%	2.3%
g. 政府による運営費交付金の算定へ、より影響すべきである。	2.3%	14.8%	46.6%	23.9%	12.5%
h. 法人への公的支出の意義の明確化に、より寄与すべきである。	2.3%	26.1%	58.0%	10.2%	3.4%
i. 法人間の競争意識の向上に、より寄与すべきである。	0.0%	15.9%	44.3%	27.3%	12.5%
j. 法人に対する他の評価との関係を含めて、評価内容を整理すべきである。	44.3%	45.5%	9.1%	1.1%	0.0%

今後の国立大学法人評価の実施目的について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。



第3期中期目標期間の教育研究評価(中期目標期間終了時)に係る検証アンケート集計結果【評価者(主担当・副担当)向け】

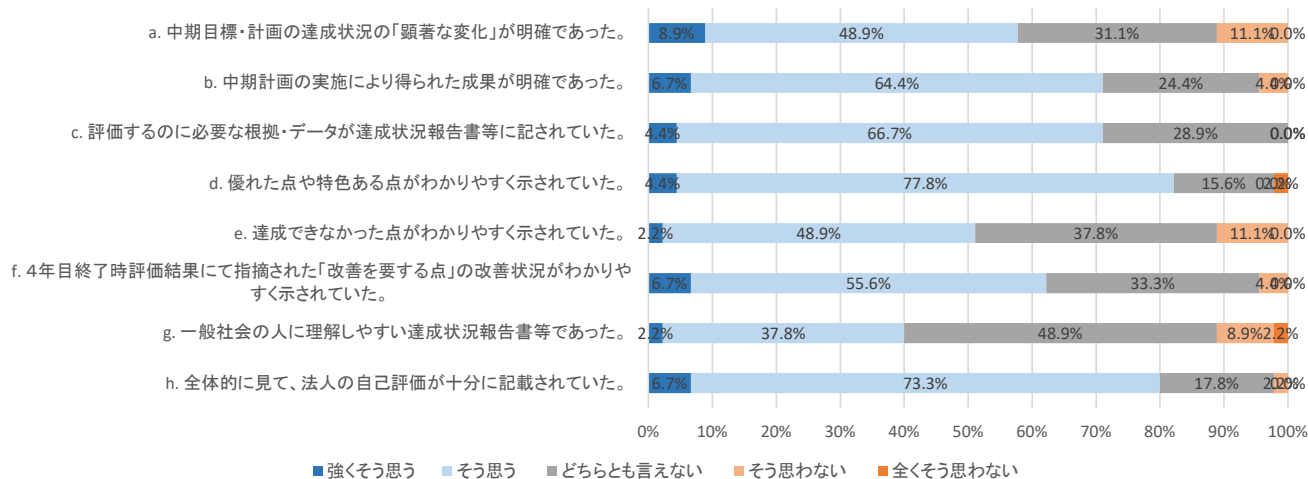
I 達成状況報告書について

(1)法人から提出された達成状況報告書の記載内容についてお聞きます。

①主担当・副担当をした法人から提出された達成状況報告書(別添資料を含む)について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

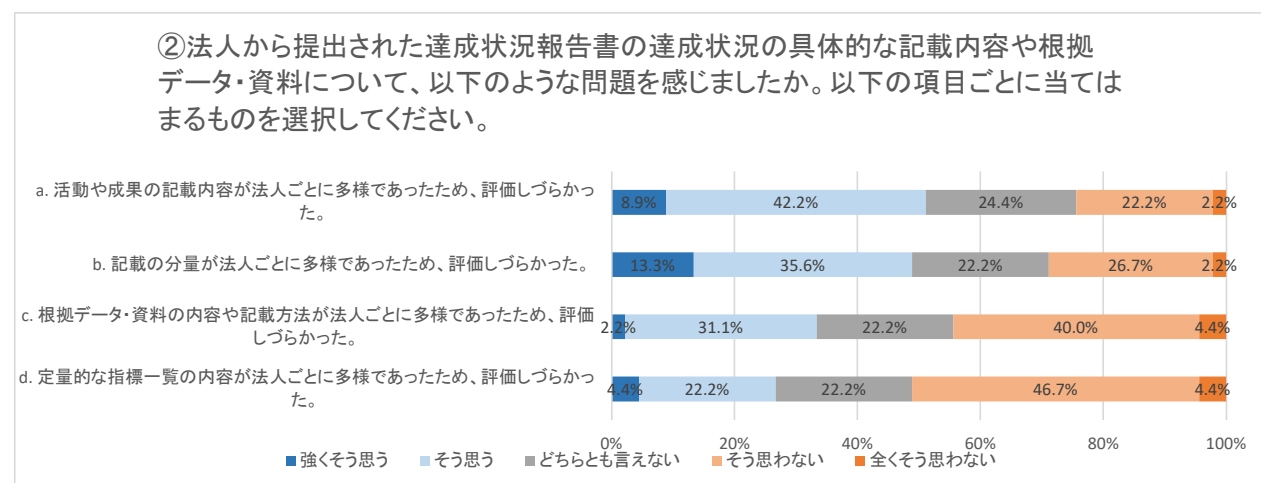
	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 中期目標・計画の達成状況の「顕著な変化」が明確であった。	8.9%	48.9%	31.1%	11.1%	0.0%
b. 中期計画の実施により得られた成果が明確であった。	6.7%	64.4%	24.4%	4.4%	0.0%
c. 評価するのに必要な根拠・データが達成状況報告書等に記されていた。	4.4%	66.7%	28.9%	0.0%	0.0%
d. 優れた点や特色ある点がわかりやすく示されていた。	4.4%	77.8%	15.6%	0.0%	2.2%
e. 達成できなかった点がわかりやすく示されていた。	2.2%	48.9%	37.8%	11.1%	0.0%
f. 4年目終了時評価結果にて指摘された「改善を要する点」の改善状況がわかりやすく示されていた。	6.7%	55.6%	33.3%	4.4%	0.0%
g. 一般社会の人に理解しやすい達成状況報告書等であった。	2.2%	37.8%	48.9%	8.9%	2.2%
h. 全体的に見て、法人の自己評価が十分に記載されていた。	6.7%	73.3%	17.8%	2.2%	0.0%

①主担当・副担当をした法人から提出された達成状況報告書(別添資料を含む)について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。



②法人から提出された達成状況報告書の達成状況の具体的な記載内容や根拠データ・資料について、以下のような問題を感じましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

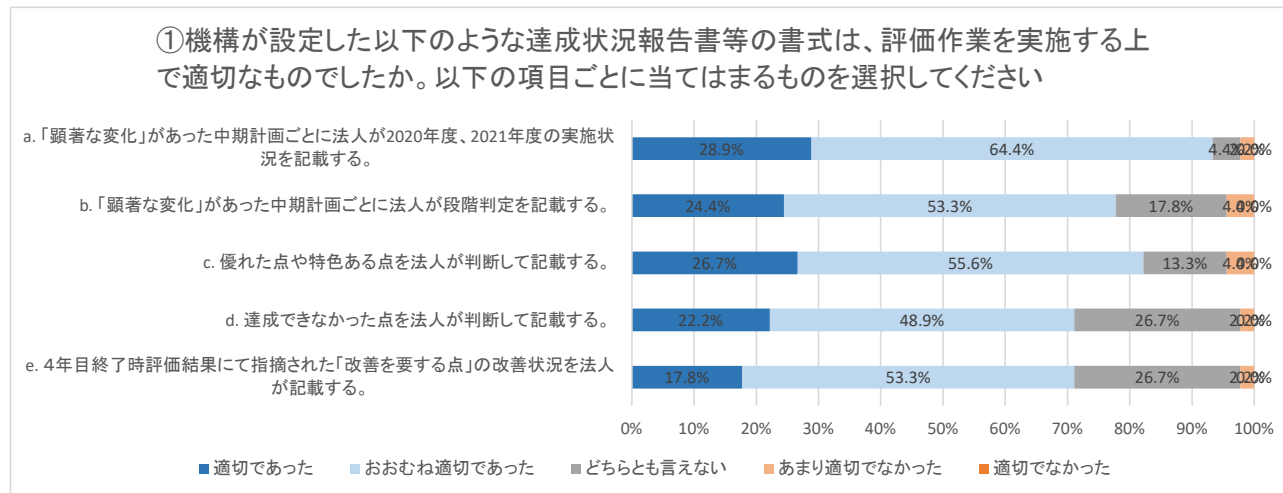
	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 活動や成果の記載内容が法人ごとに多様であったため、評価しづらかった。	8.9%	42.2%	24.4%	22.2%	2.2%
b. 記載の分量が法人ごとに多様であったため、評価しづらかった。	13.3%	35.6%	22.2%	26.7%	2.2%
c. 根拠データ・資料の内容や記載方法が法人ごとに多様であったため、評価しづらかった。	2.2%	31.1%	22.2%	40.0%	4.4%
d. 定量的な指標一覧の内容が法人ごとに多様であったため、評価しづらかった。	4.4%	22.2%	22.2%	46.7%	4.4%



(2)機構が設定した達成状況報告書の書式についてお聞きします。

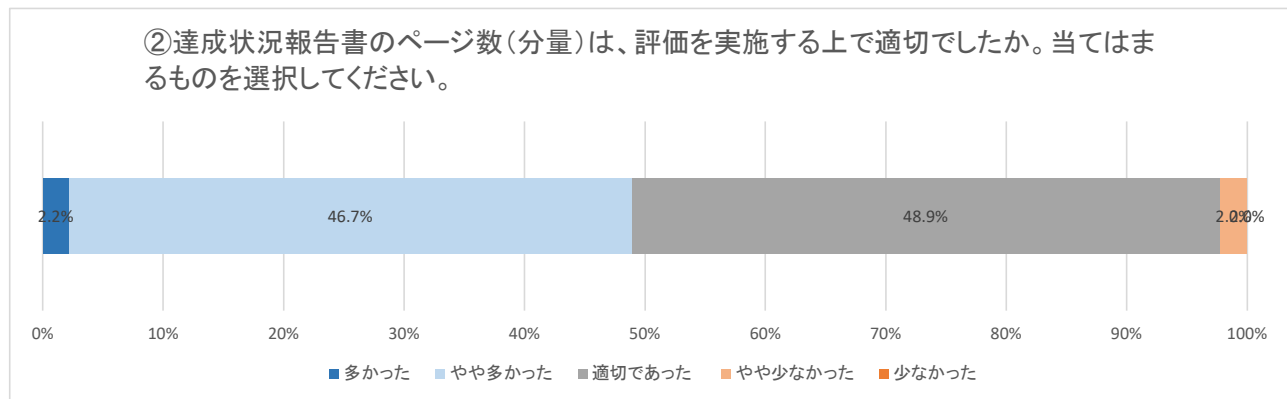
①機構が設定した以下のような達成状況報告書等の書式は、評価作業を実施する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください

	適切であった	おおむね適切であった	どちらとも言えない	あまり適切でなかった	適切でなかった
a. 「顕著な変化」があった中期計画ごとに法人が2020年度、2021年度の実施状況を記載する。	28.9%	64.4%	4.4%	2.2%	0.0%
b. 「顕著な変化」があった中期計画ごとに法人が段階判定を記載する。	24.4%	53.3%	17.8%	4.4%	0.0%
c. 優れた点や特色ある点を法人が判断して記載する。	26.7%	55.6%	13.3%	4.4%	0.0%
d. 達成できなかった点を法人が判断して記載する。	22.2%	48.9%	26.7%	2.2%	0.0%
e. 4年目終了時評価結果にて指摘された「改善を要する点」の改善状況を法人が記載する。	17.8%	53.3%	26.7%	2.2%	0.0%



②達成状況報告書のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった
2.2%	46.7%	48.9%	2.2%	0.0%



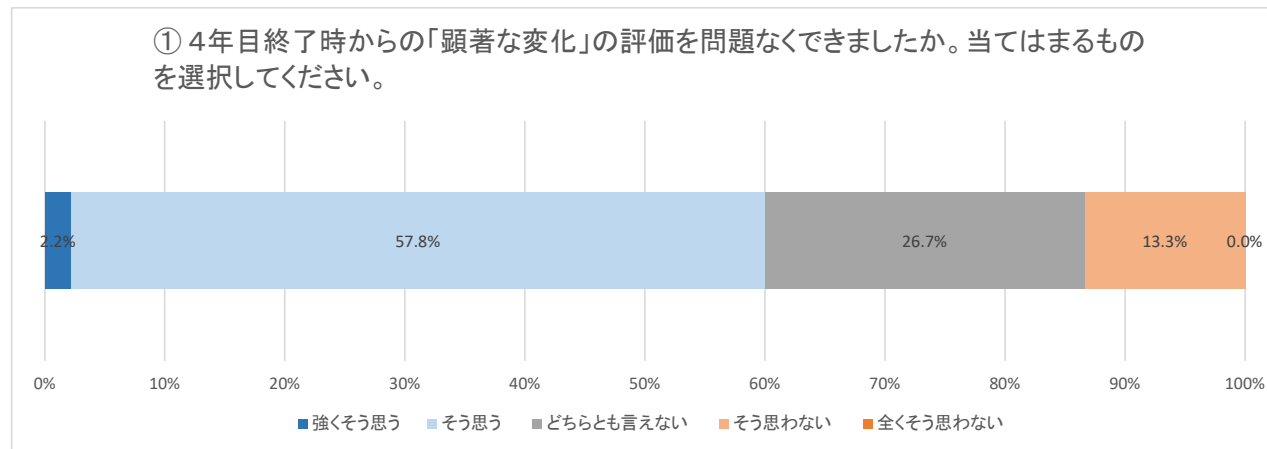
Ⅱ 評価方法・結果について

(1)「4年目終了時評価結果を変え得るような顕著な変化」の評価について

今回の評価では、「4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化」があったと法人が判断した実績を中心に中期目標・計画の達成状況の分析・判定を行うこととしました。

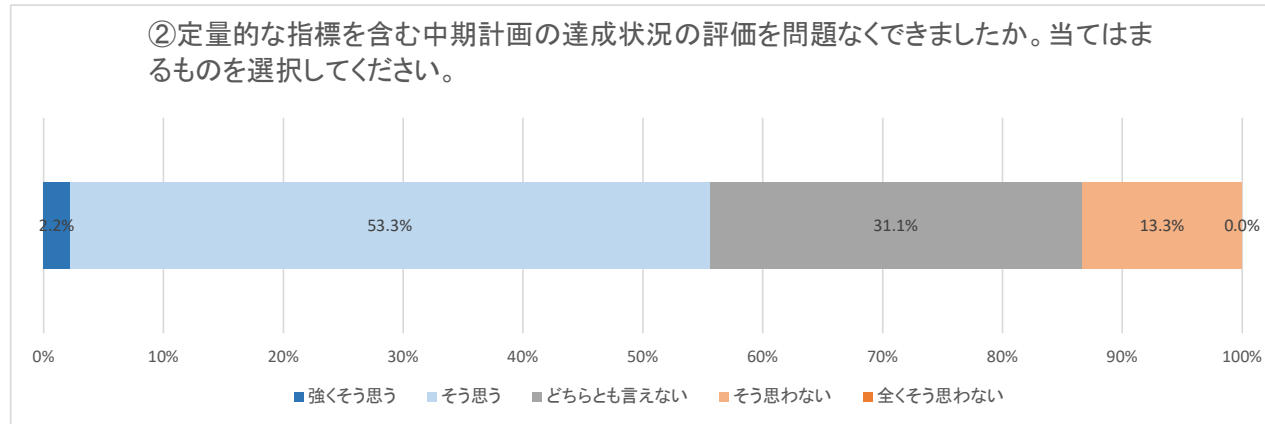
① 4年目終了時からの「顕著な変化」の評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください。

強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
2.2%	57.8%	26.7%	13.3%	0.0%



②定量的な指標を含む中期計画の達成状況の評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください。

強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない
2.2%	53.3%	31.1%	13.3%	0.0%



③ 定量的な指標を含む中期計画の達成状況の評価の中で、課題点や良かった点があればご記入ください。

定量的な指標そのものが本質的評価であるかどうかは議論あるところではないか。
法人による目標指標値の設定が高め(意欲的)な場合とそうでない場合の公平性の担保が困難であったように思う。
4年目評価と指標が異なる中期計画があった。
大学からの回答は、良く準備されており、本評価に対して誠実に取り組まれていると感じることができた。
「計画の目標数値を期間中に1度でも達成しておれば、未達とはしない」という機構としての判断基準により判定したが、継続的、永続的な達成状況が継続することが大学改革、大学の発展につながると考えるので、今後、評価基準を検討していただければとおもいます。
コロナ禍の影響のためか、定量的な指標の達成の評価が複雑であった。具体的に示されていたものの、明確に達成できていない場合の判定基準を統一的に示してほしい。
定量的な指標は、達成したかしなかったかに注意が向けられがちであるが、定量的な指標の持つ意味とそれを達成するために実施した施策やプロセスおよびアウトカムが重要と考えられる。中期計画の達成によるアウトカムに関する記述は各法人とも積極的な記載がなされる傾向にあったが、定量的な指標の達成によるアウトカムについては記載が少なかったと感じられた。
大学により定量的な指標の数が大幅に異なっており、多くの定量指標を設定した大学が低く評価される傾向が見られた。また、定量的な数値目標を「維持する」などの表現の場合に、未達成の年度があった場合にどう判断するのか迷った。
定量的な指標の設定の仕方が各法人で異なるので評価が難しかった。分野やその規模も各法人で大きく異なるので、一律な評価自体が難しい。
副担当の法人によっては、定量的な指標が評価に達していない場合でも、法人の記述があいまいであった点。
判断に迷うことがあった場合、大学改革支援・学位授与機構の方々に相談できて助かりました。
指標を未達成である事項を達成状況報告書に全く記載していない事例があった。
コロナ禍での影響をどこまで考慮したらよいのか迷う中期計画があった。
法人の中には、定量的な指標の設定根拠が不明確で、過度に高い目標や多くの定量指標を設定した結果、法人の特色ある取組が見いだせても、定量指標未達のためにその取組を良好な評価に反映できない場合があった。第3期中目・中計の策定にあたって、法人が定量指標の設定に過度の圧力を感じていた側面もあろうし、プロセス評価が3期末の評価にどのように反映されるのかの理解も不徹底であったように思われる。
定量的な指標そのものが評価にとって必ずしも適切でないように思える場合があった。
定量的な指標が示されている場合は評価を明確に示すことができる点はよい点であった。
定量的な指標の評価基準は、明確でよい

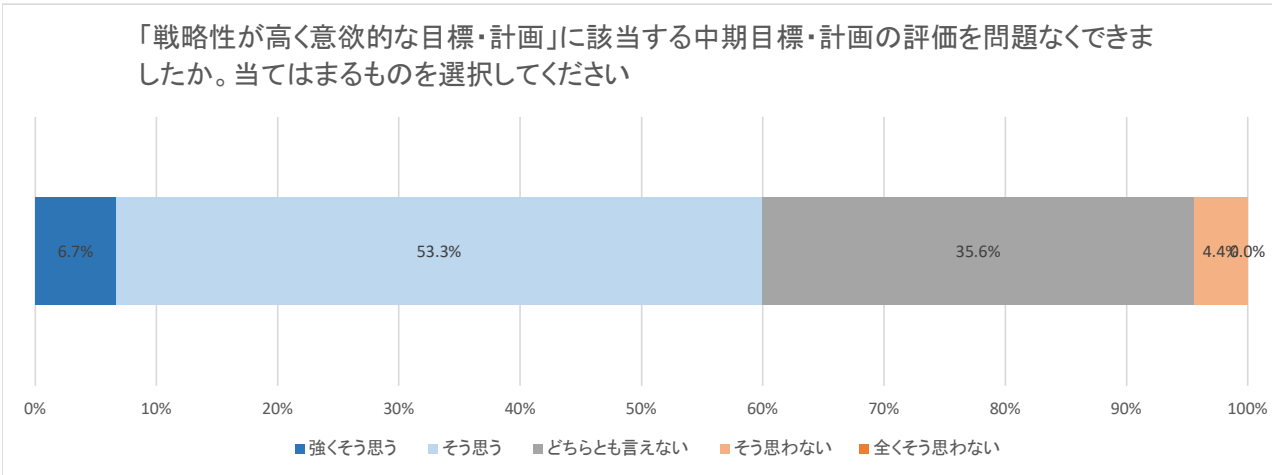
達成できなかった点について、その理由や期間中の取組状況をより多く記載するのが良かったと思います。
明らかにCOVID19の影響により、現実的に達成不能となった定量指標を未達成と判定せざるを得ないことの無機質さは納得しがたいものがあった。また、教員養成学部卒業生の教員就職率や教員占有率など、法人の達成度だけが評価されてしまうが、これらは法人の努力だけではいかんともしがたい側面があり、一律の評価を行ってよいのか疑問が残った。法人評価は、法人がより良い研究教育の成果を生み出すようにその環境整備を助けるために行うべきであると考え、評価のための評価になっているのではないかと思わざるを得ない点もあった。中期目標・計画の作成、報告書の作成にかつて理事副学長として何回かかかわったものとして、これらの作業が教員が本来割くべき研究教育時間を相当量奪っているのではないかと疑問に思っている。評価はすべきであるが、方法は考えてほしい。
法人ごとに中期計画数に大きなばらつきが見られた。
定量的な指標の達成目標が、中期計画期間6年間のすべての年度で達成するのか、いずれかの年度で達成するのか、最終年度で達成するのか、それらについて明記されていないものが多く、達成状況の評価に迷う場合があった。
法人の規模や立地に依存していることは理解できるが、そもそも目標設定のレベルが法人によって大きく異なっていた。高レベルの目標設定の法人と低いレベルの目標設定の法人が同じ「計画を達成している」と評定されることになってしまうことに違和感を感じた。
①外的な要素(例えば教員の就職割合)やコロナ禍での対応等が、各法人でのとらえ方も評価者のとらえ方もやや個別差があったこと ②地域特性はよく出ており、各法人の特色は見えてきました 数値目標の取扱い・・・数値を絶対視するかどうか検討の余地があると思われる。
特に問題を感じませんでした。
①定量的評価はわかりやすいため、未達成はマイナス評価に直結する。定量的評価を少なく設定した法人、積極的に記載した法人があり、後者が不利になった可能性がある点、改善が求められる。②6年間は長く、途中で止むを得ない理由で指標の変更をする申し出を、4年目評価時に受け付ける等、工夫してはどうか?③法人毎もそうだが、同じ法人内でも担当者により記載がばらついているケースがあり、甚だしいケースは機構評価を理解できていない担当者がある印象がある。1年目から3年目のうちに、定量的指標の取り扱いを含め、評価者研修を重ねるとよい。
戦力性が高く意欲的な計画の位置づけはあるものの、定量的指標にまったく届いていない計画について、前者を優先して判断するように求められた点は正直戸惑った。逆に、そのような計画の位置づけはないものの、客観的に意欲的な定量的指標に関しては、判断が厳しくなっていると感じた。
数値目標の達成にわずかに及ばない場合の判断をどうするか迷うことが多かった。
研究に関するピアレビューについて、4年目では行われても、中期目標・計画の期間全体を通じてはなされない仕組みとなっている。6年間の成果を評価するという点では、再検討の余地があるのではないか。
コロナ禍の影響をどのように評価に反映するかは課題で合ったと思う。
「顕著な変化」の定義に幅があるように感じる。今後、具体例の提示等を通じて審査する際の参考資料をより具体的なものとするのが有用と考える。
定量的な指標に対する数値の実績のみを尺度にして「達成したか否か」を判定することは避けるべき。定量指標は確かに判り易いし、対外的にも説明し易いが、中期計画策定時にどの程度の数値を設定するかは、大学によって考え方(意欲的に設定するか、達成できる範囲を見越して設定するか)が異なるであろうし、数値目標を上回ったか下回ったかだけで安直に中期計画の実施状況を判定することが教育研究活動の正当な評価に繋がるとは考え難い。
定量的指標を達成したかどうかの判定は、指標の内容、指標の達成に影響を与える学内外の諸状況(例えば、新型コロナウイルス感染症等の影響)を勘案して行うために、考慮すべき要因、達成とみなす範囲(例えば、±5～10%)の如何等、達成したかどうかの判定はきわめて難しいと感じた。
達成状況報告書の記述に関して、項目間のバラツキを感じた。分担記述したものを法人側で読み直し、表現等の推敲をしていただけると良いように思う。

(2)「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価について

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価に当たっては、計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮し、判定することとしていました。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に該当する中期目標・計画の評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください

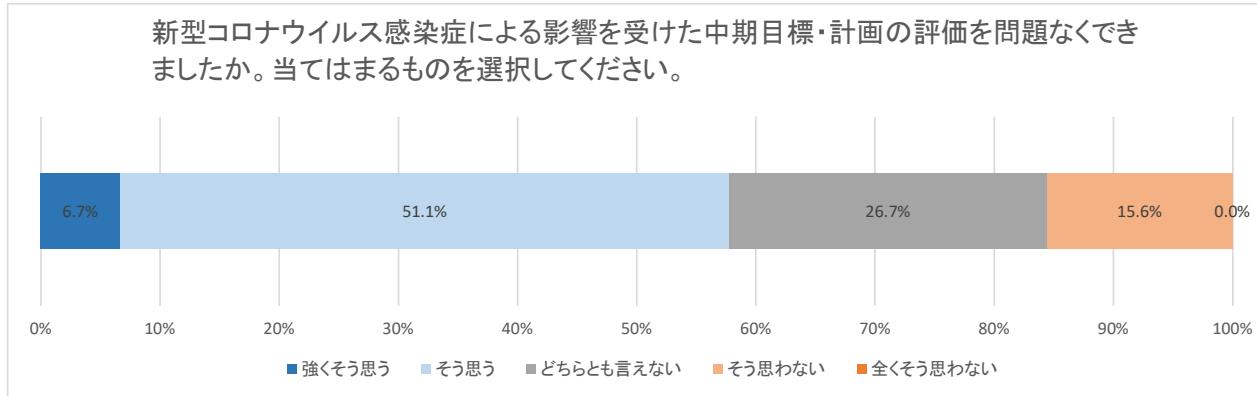
強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
6.7%	53.3%	35.6%	4.4%	0.0%



(3)新型コロナウイルス感染症による影響の考慮について

今回の評価では、新型コロナウイルス感染症の影響下における取組等についてポジティブな面で顕著な変化があったと認められる場合には積極的に評価するとともに、明らかに新型コロナウイルス感染症の影響により中期計画を達成することができなかった場合には、プロセスや内容等を総合的に評価することになっていました。新型コロナウイルス感染症による影響を受けた中期目標・計画の評価を問題なくできましたか。当てはまるものを選択してください。

強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
6.7%	51.1%	26.7%	15.6%	0.0%

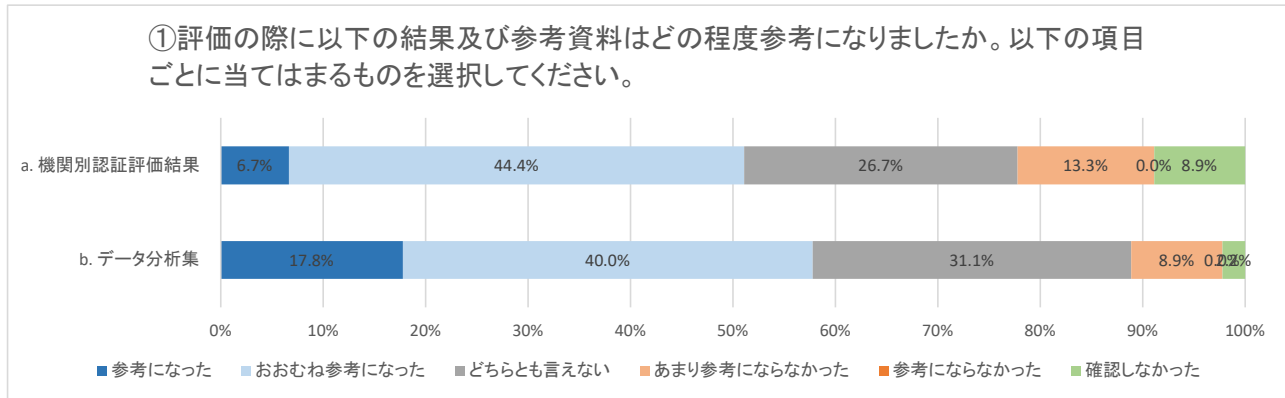


(4)機関別認証評価結果等の活用について

法人が達成状況報告書を記載する際に、必要に応じ、直近の機関別認証評価結果等を根拠資料として示すことができるとし、評価者は該当の資料を参照し、評価することとしていました。また、学生数や外部資金に関する指標の推などの定量的データを「データ分析集」として評価者に提供しました。

①評価の際に以下の結果及び参考資料はどの程度参考になりましたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	参考になった	おおむね参考になった	どちらとも言えない	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	確認しなかった
a. 機関別認証評価結果	6.7%	44.4%	26.7%	13.3%	0.0%	8.9%
b. データ分析集	17.8%	40.0%	31.1%	8.9%	0.0%	2.2%



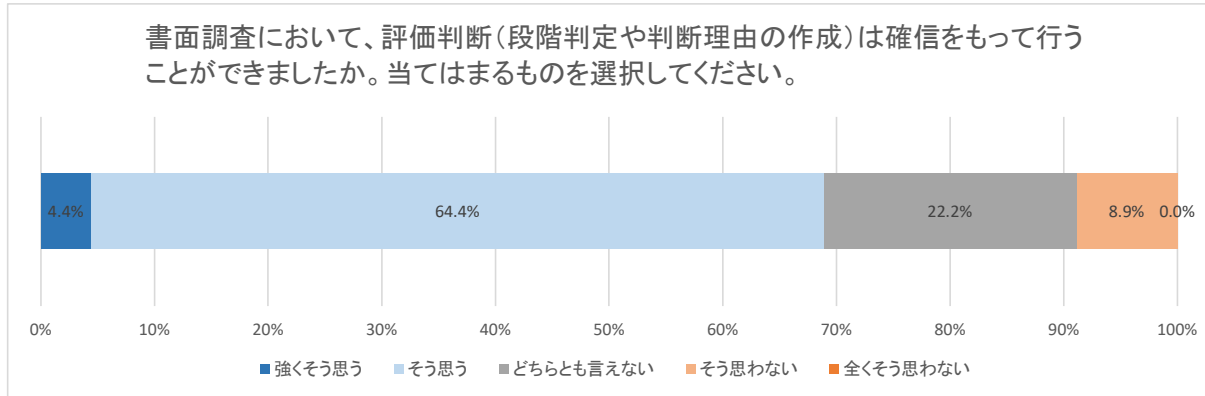
② データ分析集の指標が参考になった点、参考にならなかった点をご記入ください。

指標そのものが参考となり得る。
一般的な情報として有用であったが、個別の中期目標・中期計画との関連がないものも多くあり、作業そのものに使う機会が十分でなかった。
特にありません。
評価に関連するデータがあり、正確に判断するための資料として有効であった。
データ分析において法人ごとにどこに重点を置いて考えていたのかを明確に示してもらえれば、もっと評価に際して役に立つと思われる。単に数値だけでは比較できない場合もあった。
基礎データの確認は評価する上で大事な礎でした。
コロナ禍の影響が大きかったので単純化された指標だけで評価することができない。
データが明確に示された法人とそうでない法人があった、と思われる。
データ分析集のあるデータが、法人独自の考え方によって異なったデータとなっている場合があった。
達成状況報告書の内容を裏付けるために参考になった。
就職率や外部資金獲得などは参考になったが、他の細かい指標は参照することがなかった。
データ毎の評価大学の位置づけが不明瞭であったために、参考にならなかった。
法人から提出された達成状況報告書の内容を基に、各評価項目(中項目・小項目)の判定を行う過程で、データ分析集にある情報を適宜参照する形で利用した。
指標そのものの意味合いが必ずしも明確ではない場合があった。
一般的な項目については参考になったが、「優れた成果」に関わる事柄については必ずしも参考になる項目があったわけではなかった。
経年の変化を明確に捉えることが出来た。
教員体制、学生・教育、外部資金獲得等に関する数値情報が年度別に示されている。
学生の在籍状況、就職状況など、教育の成果として大いに参考になった。
別添資料以外のデータ分析集は報告書に引用が無い限り参考にしなかった。
明確な証跡が示されている機関の場合は、明確に評価することでき、参考になった。
単に文章の回答では納得できないことも見受けられたが、データ分析集によって理解を深められた。
各法人の分析に甘辛の差はあるように思いましたが難しかった
データの時系列変化などは、判断のためのいい材料となった
評価にあたって直接参考になったとはいえないものの、評価担当大学の全体像がつかめました。
データを踏まえて法人が記載していることから、本評価者に関して言えば、ある程度参考にした程度であり活用しなかった。
外部資金・産学連携・社会貢献関連する数字の推移がわかった点が参考になった。
4年目の評価の際には参考資料の指標等を参考にしたが、中期目標達成状況評価作業では達成状況報告書を中心に評価したため、あまり参考資料まであたる必要はなかった。
経年的な変化を視覚的に捉えることができたので、関連する評価項目の理解・判断について理解を深めることができたと思います。
研究成果の状況、科研費の獲得状況など、研究を評価するうえでの参考となった。
各法人の教育研究活動の状況を把握する上では有用であったが、中期計画・中期目標との対応が必ずしも明確ではないために、評価の際の利用に難しさがあった。
有効であると思うが、全体に目を通すのがたいへんである。

(5) 書面調査について

書面調査において、評価判断(段階判定や判断理由の作成)は確信をもって行うことができましたか。当てはまるものを選択してください。

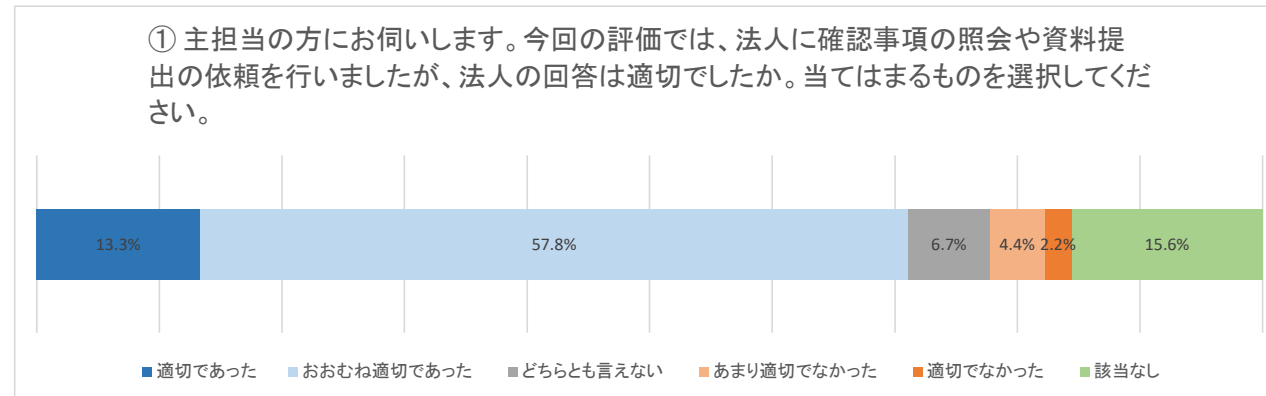
強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
4.4%	64.4%	22.2%	8.9%	0.0%



(6) 確認事項の照会及びヒアリングについて

① 主担当の方にお伺いします。今回の評価では、法人に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。法人の回答は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。(副担当の方は「該当なし」を選択)

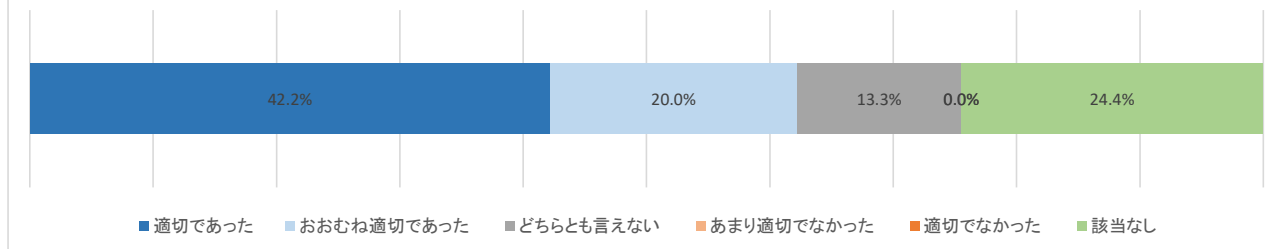
適切であった	おおむね適切であった	どちらとも言えない	あまり適切でなかった	適切でなかった	該当なし
13.3%	57.8%	6.7%	4.4%	2.2%	15.6%



② 主担当の方にお伺いします。今回の評価では、必要に応じてヒアリングを行うという方法をとりましたが、適切でしたか。当てはまるものを選択してください。(副担当の方は「該当なし」を選択)

適切であった	おおむね適切であった	どちらとも言えない	あまり適切でなかった	適切でなかった	該当なし
42.2%	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%	24.4%

② 主担当の方にお伺いします。今回の評価では、必要に応じてヒアリングを行うという方法をとりましたが、適切でしたか。当てはまるものを選択してください。(副担当の方は「該当なし」を選択)

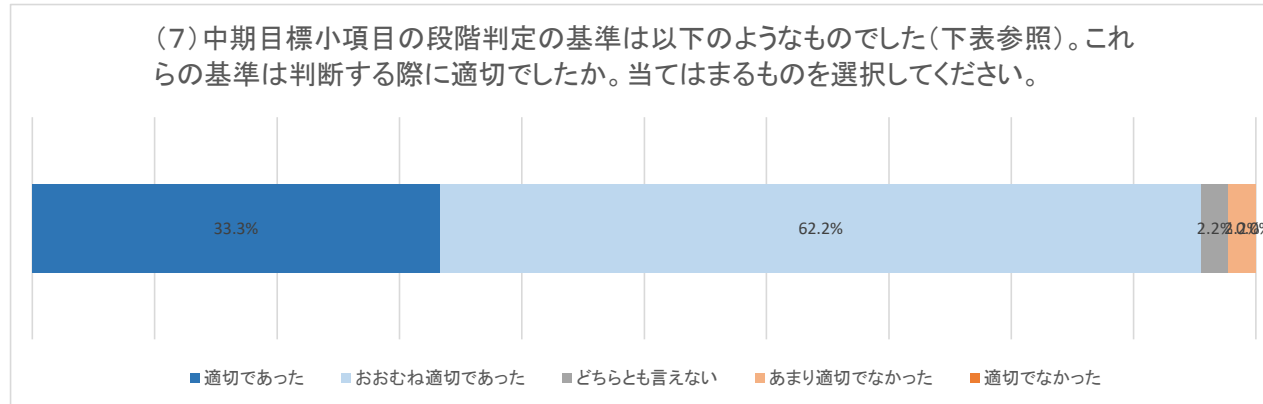


③ ヒアリングに出席した評価者の方に対してお伺いします。ヒアリングについて、法人の回答やオンライン実施による支障の有無等を含めて、ご意見がありましたら以下にご記入ください。

支障は特に無し。
今年度はヒアリング対象法人はありませんでした。事前回答で了解することができました。
ヒアリングは実施しなくても書面回答だけで判断できた。
特に問題はなかった。
特にありません。
ヒアリングにおける法人の回答は、第4期以降の努力目標あるいは方向目標を示す内容に止まり、評価者が判定内容を考慮する上では、有意義な回答をえることができなかった。
十分なヒアリングをするためには、さらに工夫が必要であると感じた。
最終のヒアリングは副担当であった一法人だけであったが、特にヒアリングが必要であるとは思えなかった。書面での回答が不十分であった点が、まったく答えられておらず、法人側が主担当の意図を理解できていなかったように思えた。オンラインは問題なかった。
オンラインでは法人側の表情をなかなか読み取れず、ちょっと判断しにくい面もあった。
法人の回答が曖昧で根拠が無さそうな事例があったので、法人には明解な回答をしていただく事を望む。
問題ありませんでした。
オンライン実施による支障は特になかった。
手続き的にはヒアリングは必要と考えるが、かみ合わないことが少なくないように感じた。ヒアリングによって評価が変更になるケースは少ないように思われる。

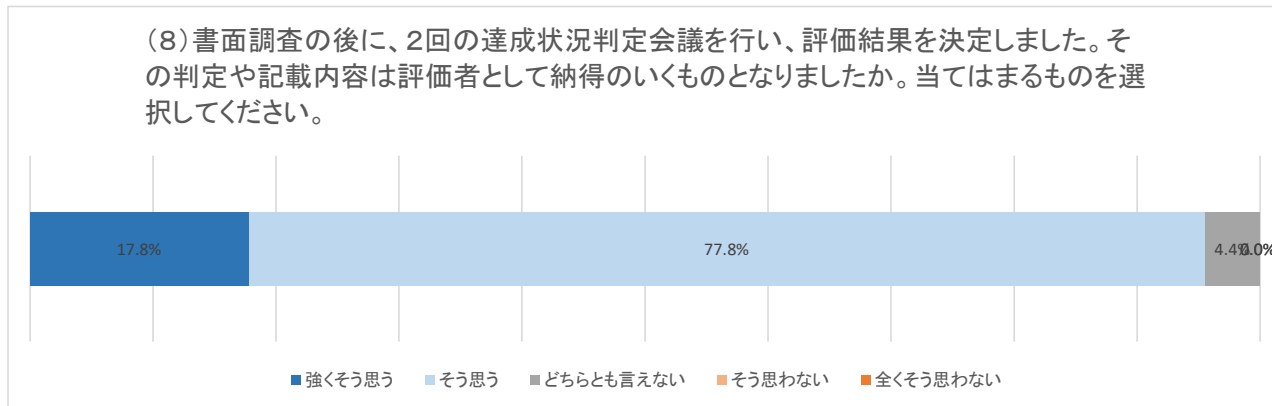
(7)中期目標小項目の段階判定の基準は以下のようなものでした(下表参照)。これらの基準は判断する際に適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

適切であった	おおむね適切であった	どちらとも言えない	あまり適切でなかった	適切でなかった
33.3%	62.2%	2.2%	2.2%	0.0%



(8)書面調査の後に、2回の達成状況判定会議を行い、評価結果を決定しました。その判定や記載内容は評価者として納得のいくものとなりましたか。当てはまるものを選択してください。

強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
17.8%	77.8%	4.4%	0.0%	0.0%



(9)4年目終了時評価では、第3期中期目標期間の5年目と6年目に見込まれる実績を含めて評価をしました。課題点や良かった点があればご記入ください。

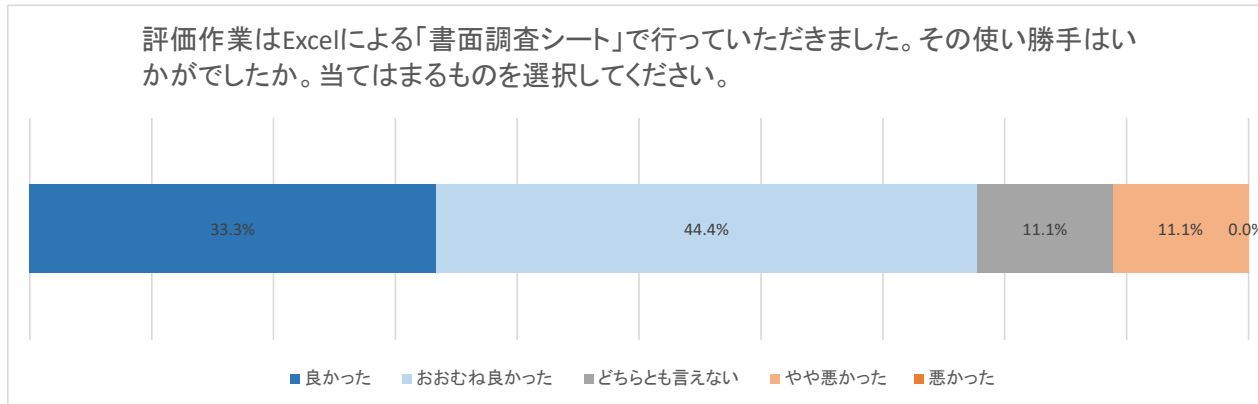
見込まれる実績は必要との認識であるが、終了時評価との関係(目標の修正など)をより明示的にした方がよいかもしい。
4年目終了時評価に投じたエフォートが無駄にならない良い仕組みと思った。
新型コロナウイルス感染状況拡大以外の外的要因によって中期計画等が達成できない場合の評価が難しかった。
4年の実績を踏まえて、事実や実績を基本として5年、6年に見込まれる実績を含めて評価することができた。
一部の法人、一部の項目で、努力の継続がないために達成状況が下がったものがある、と感じています。 以前は評価される側の立場でした。次の中目計の準備もあり、早めに結論を出すという説明でした。そのための努力もしてきました。 現時点で、そのことが機構としてどのように説明されたのかが、立場が変わり、聞こえてこず、気になっている点です。
4年目終了段階ではコロナ禍が始まったところであったために、5年目、6年目の見込みを予想することが難しかった。今回のような突発的な避けがたい事情が見込まれる場合の対応も具体的に検討してほしい。
法人によっては、5年目と6年目に重要な計画を盛り込んでいるものもあり、(大学の長期スパンでの計画や戦略かもしれないが)、見込み実績を含む評価がやりにくくなる場合もあった。
特になし
4年目でいったん評価を行うことで、大学側も評価者側も評価をやりやすかったと思われる。
数値目標に対しては予測が難しかった。
4年目終了時評価について、5年目・6年目の成果見込みを含んで評価したことによって、主担当の法人については、4年目に対して6年目の評価が下がる項目が多く出た。4年目終了時評価をその時点の成果に即して評価・判定することが適切であったのではないかと、個人的には感じている。
4年目終了時評価、第3期中期目標期間終了時評価ともに今回はじめて担当したので、特に4年目終了時評価については戸惑うことも多かった。終了時評価をしてみて、はじめて4年目終了時評価における「5年目と6年目に見込まれる実績を含めて」の評価の意味がわかったようなところもある。
コロナによるパンデミックという予期せぬ状況にあった大学の対応や努力を、より積極的に適切に評価することが求められると感じた。
「見込まれた点がどのような実績・成果になった」という記載方法に必ずしもなっていないように思います。
COVID19による行動制限が長期化したことによる影響を判断しきれなかった反省がある。4年目までの達成状況で最終状況を外挿できる場合と、すでに達成できていたこと、通常であっても達成できないであろうと判断できることは、読み込めば特に判断に困ることはなかった。
コロナ禍が無ければ実質的に機能したやり方だと思いました。一方、5、6年目実績は明らかにコロナ禍の影響を受けており、4年次目終了評価の見込みがその通りにならない結果となった。
2年を残した見込みの評価は、確実な評価が難しい点もある。特に、今期はコロナの影響による4年目評価後の実施状況変化もあって、公平な評価となったか否か課題が残る。
過去(これまでの実績)を踏まえて、これからどうする計画なのか理解できたことは良い点であったと思います。
外的な状況の予測(18歳人口の激減、就職状況等)やAfterコロナの状況が法人側も評価者もまだ見えてこないものがあり難しい。
5年目、6年目に急に数値がよくなったことを、4年目までの結果と照らし合わせて、どのように判断すべきか、迷いが生じた。
4年目終了時評価の結果が、中期目標・計画期間の評価の基盤を形成するという点で、それ以降の実績見込みを含めることは大切だと思いました。
4年目評価で期間終了までの見込みを含めて評価をしたことは良いと思うが、4年目評価者と最終評価者が違うことから、「確実に見込める」のか、「期待をこめて」なのか、「懸念を感じつつも」なのか、ニュアンスがわからない。今回、4年目評価時にコロナ禍の行方が見通せなかった、という特殊事情もあり、4年目評価と最終評価の整合性にやや課題が残るように感じた。
それ自体に課題はなかったと思います。ただ、計画に寄りますが、4年目時点で「3」判定したもので、5年目・6年目の展開がこの判定を維持できる形で推進されているか、事実上確認できない点が気になりました。
コロナ禍の最中であり、5、6年目の実績、とくに国際交流関係の実績を予想するのは難しかった。
今回は、5年目と6年目にコロナウイルス感染症の問題が発生して、それへの対応が各大学とも大変であったと思う。また、評価においても、どのように考慮するか難しかった。4年目終了時評価があったほうがいいのかどうか、研究業績評価は4年目終了時しか実施されないで、このままでいいのか見当が必要と考える。
4年目終了時評価のような中間評価においては、5年目と6年目に見込まれる実績を含むことに違和感を感じる。
4年目は4年目、6年目は6年目で目標の達成度を見るという評価の方がよいように思う。
「4年目終了時評価で5、6年目に見込まれる実績(あるいは実施計画)を含めて評価が行われた」ことをどう捉えるかは、法人によって認識に随分と差があるように感じる。法人に対して、終了時評価で扱う事項は「4年目終了時評価を変え得るような顕著な進捗/停滞があった場合に限定する」ことを、より徹底周知すべきではなかったか。
4年目終了時評価は、本来、第3期中期目標期間の途中評価であるにもかかわらず、全期間を通じてきわめて重要な評価となっている。そのことを、評価者であった私自身があまり意識せずに評価に当たったことが反省点であるが、評価される大学自身がそのことを十分に認識していたか疑問に感じる。
5年目と6年目に見込まれる実績は、肯定的な見込みが多かったため、実際の実績にもとづく6年目評価と齟齬が生じる場合があった。

Ⅲ 評価作業と評価者研修について

(1) 書面調査シートについて

評価作業はExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。

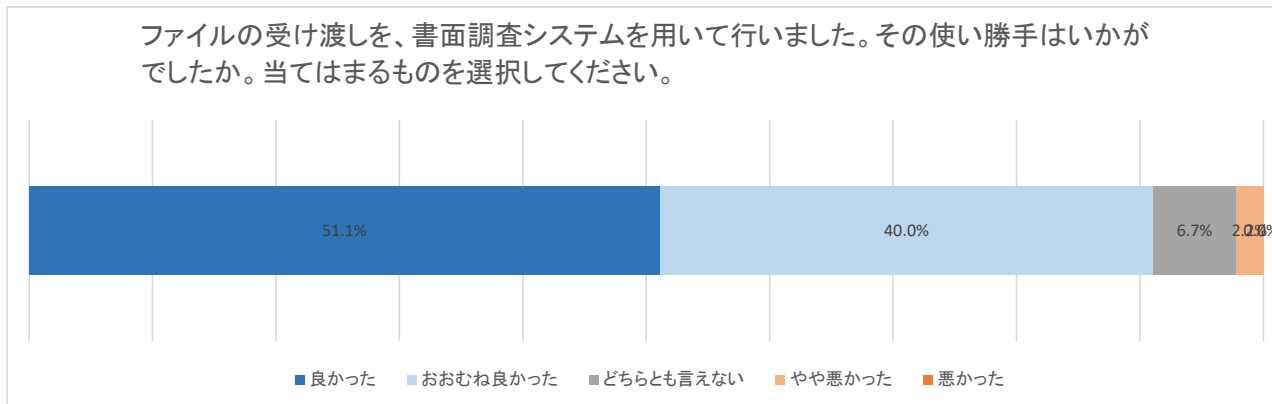
良かった	おおむね良かった	どちらとも言えない	やや悪かった	悪かった
33.3%	44.4%	11.1%	11.1%	0.0%



(2) 書面調査システムによる作業について

ファイルの受け渡しを、書面調査システムを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。

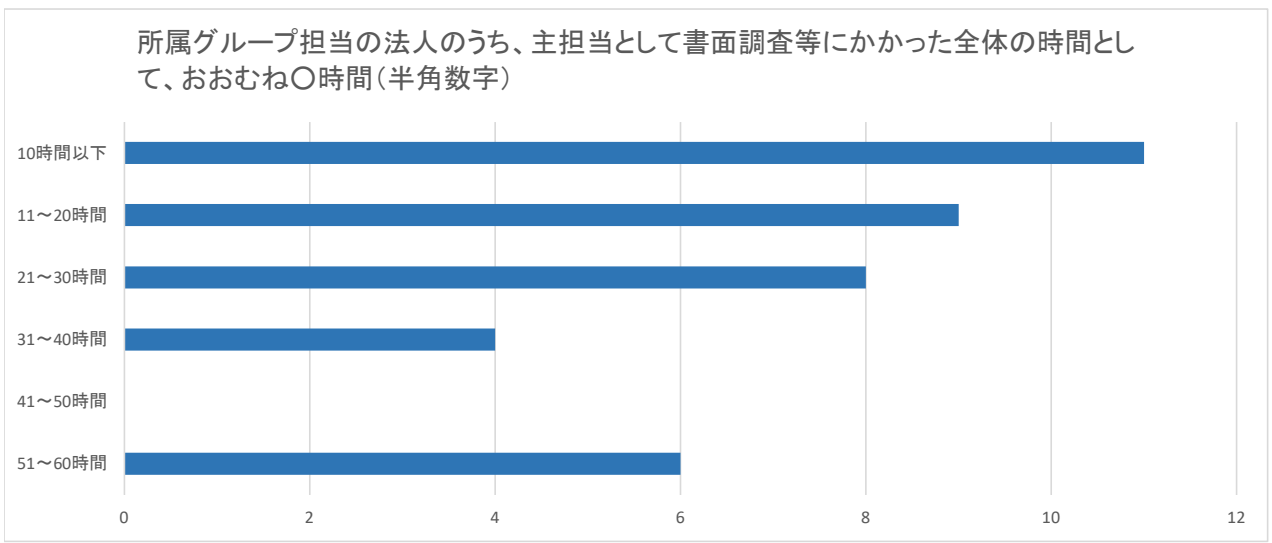
良かった	おおむね良かった	どちらとも言えない	やや悪かった	悪かった
51.1%	40.0%	6.7%	2.2%	0.0%



(3)作業時間について

所属グループ担当の法人のうち、主担当として書面調査等にかかった全体の時間として、おおむね〇時間(半角数字)

10時間以下	11～20時間	21～30時間	31～40時間	41～50時間	51～60時間
11	9	8	4	0	6



第3期中期目標期間の教育研究評価(中期目標期間終了時)に係る検証アンケート集計結果【評価者(グループリーダー・有識者)向け

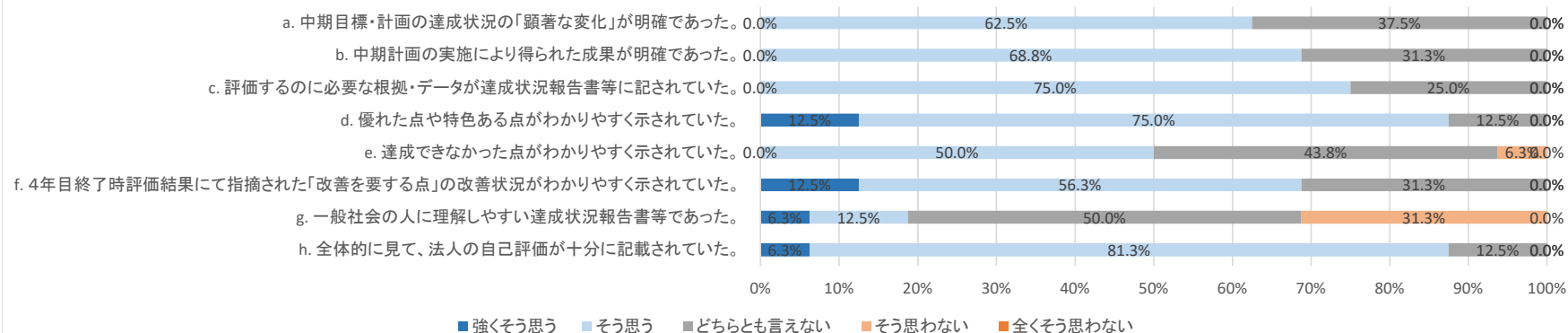
I 達成状況報告書について

(1)法人から提出された達成状況報告書の記載内容についてお聞きます。

法人から提出された達成状況報告書(別添資料を含む)について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
a. 中期目標・計画の達成状況の「顕著な変化」が明確であった。	0.0%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%
b. 中期計画の実施により得られた成果が明確であった。	0.0%	68.8%	31.3%	0.0%	0.0%
c. 評価するのに必要な根拠・データが達成状況報告書等に記されていた。	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
d. 優れた点や特色ある点がわかりやすく示されていた。	12.5%	75.0%	12.5%	0.0%	0.0%
e. 達成できなかった点がわかりやすく示されていた。	0.0%	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%
f. 4年目終了時評価結果にて指摘された「改善を要する点」の改善状況がわかりやすく示されていた。	12.5%	56.3%	31.3%	0.0%	0.0%
g. 一般社会の人に理解しやすい達成状況報告書等であった。	6.3%	12.5%	50.0%	31.3%	0.0%
h. 全体的に見て、法人の自己評価が十分に記載されていた。	6.3%	81.3%	12.5%	0.0%	0.0%

法人から提出された達成状況報告書(別添資料を含む)について、以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

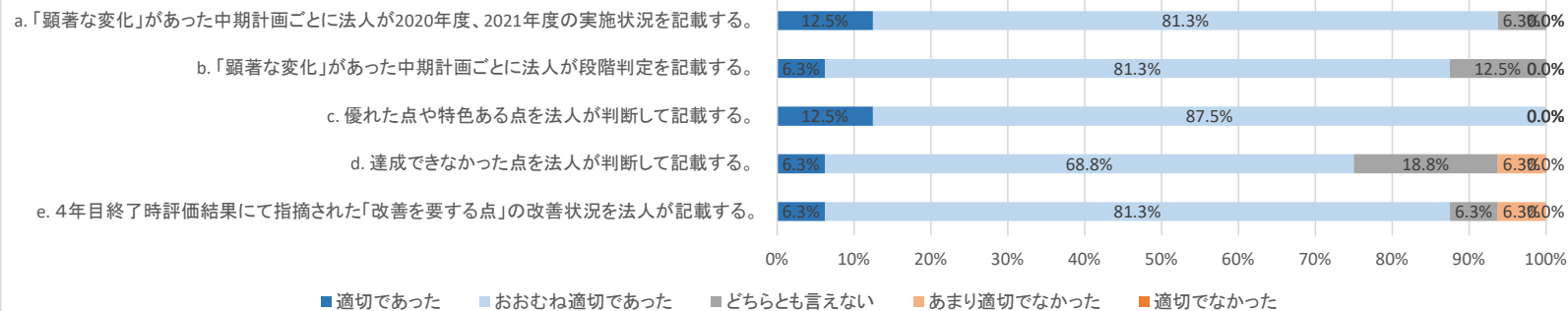


(2) 機構が設定した達成状況報告書の書式についてお聞きします。

① 機構が設定した以下のような達成状況報告書等の書式は、評価作業を実施する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

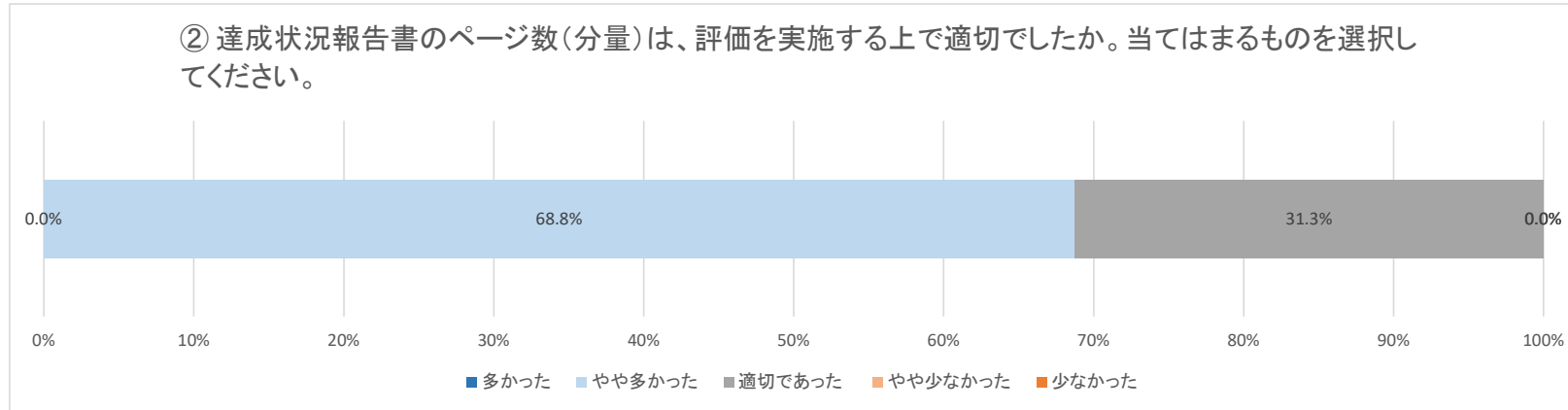
	適切であった	おおむね適切であった	どちらとも言えない	あまり適切でなかった	適切でなかった
a. 「顕著な変化」があった中期計画ごとに法人が2020年度、2021年度の実施状況を記載する。	12.5%	81.3%	6.3%	0.0%	0.0%
b. 「顕著な変化」があった中期計画ごとに法人が段階判定を記載する。	6.3%	81.3%	12.5%	0.0%	0.0%
c. 優れた点や特色ある点を法人が判断して記載する。	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%
d. 達成できなかった点を法人が判断して記載する。	6.3%	68.8%	18.8%	6.3%	0.0%
e. 4年目終了時評価結果にて指摘された「改善を要する点」の改善状況を法人が記載する。	6.3%	81.3%	6.3%	6.3%	0.0%

① 機構が設定した以下のような達成状況報告書等の書式は、評価作業を実施する上で適切なものでしたか。以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。



② 達成状況報告書のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった
0.0%	68.8%	31.3%	0.0%	0.0%



II 評価方法について

(1) 評価方法全般について

2回にわたる達成状況判定会議等を通じ、課題点や良かった点(例:定量的な指標を含む中期計画の達成状況の評価)があればご記入ください。

課題点: 複数の大学で取り組んでいる内容について、学校間で取り組みの程度・内容が異なる場合の評価のあり方(各大学の方針の尊重自体はそれで良いが)。また、各大学によって、良い悪いの評価レベルの相違(これまでの対応の進行度合いの程度にもよるが、ある大学にとっては、当たり前が、別の大学にとっては、良い点になったりする)もあることも事実としてある。良い点:各大学とも、全体として、要点を簡潔に記述している点は良かった。

1. 目標設定の際の定量目標(KPI)が曖昧である為に、その後の評価が辛い場面が見受けられたので、今後は法人の目標設定をレビューする機会を設けることが肝要。

2. 世の中が従来に比べて飛躍的に早いスピードで変化する中で10年間の目標を設定することの是非は要検討。或いは期間中の目標再設定を促す等、初期設定の目標に捉われない機動的な施策が望ましいものと思料。

感想だけだが、かつてと比較すると、どの大学も定量的な指標の取扱いに慣れてきた印象がある。

何度も指摘しているが、結果の評価のみで、最も議論されなければならない「課題点」の議論がない。

丁寧かつ厳正に評価を行っていると判断している。各大学の各評価において学位授与機構の事務の方々ならびに各大学の丁寧な対応であったことに感銘しております。

良かった点は、各大学の取り組みを知ることができ、それに対して適切な評価がされていることがわかったことです。課題点としては、きちんと時間を取って資料を読み込んでいれば、どのようなことがなされているのかを理解できるが、これをそのまま公開しても一般の人にどれほど理解してもらえるのか、難しい点です。

定量的計画に大きなずれのある場合があった(多くはコロナ禍の影響)。

「4年目終了時評価結果を変えようような顕著な変化」に絞った点は良かった。

事務局の適切な資料ご準備のおかげで、評価ポイントが簡潔に集約され、明確な判定作業を行うことができました。

論点が整理されていて効率的な議論ができた

法人が多く時間をかけて準備し、機構側もわかりやすく整理されていた点がよかったですと思います。ただ、「社会の目」を法人の改善や自己認識に反映させるには、この会議とは別の場が必要かもしれないと思いました。

長引くコロナ禍による要因によりKPIの達成が困難と想定される目標があったが、各大学による創意工夫で代替策が講じられているものもあった。ただ、大学によってそうした記述や説明の詳細さには差があった。量的指標が達成されない場合の取組みに対する質的な評価の必要性やバランスの把握が課題と感じた。

(2)ヒアリングについて

ヒアリングに出席した評価者の方に対してお伺いします。ヒアリングについて、法人の回答やオンライン実施による支障の有無等を含めて、ご意見がありましたら以下にご記入ください。

オンラインでの面談において、先方の一人ひとりの顔が小さくて見えない場合や、音声の乱れなどで十分に聞き取れない場合もあった。一方で、オンライン方式は、対面での面談に比べて時間を取らずにできる利点もある。今後、対面とリモートのハイブリッドが必要であろう。

この時期なので評価の面談がかつてのように充分なしえない中であって、それを超えるご対応であったと思っています。また、それに対するルール上での適切な対応であったと思います。

主査として報告する人は目的が明確で、しっかり参加できるが、有識者という立場で参加すると、そもそもどのような発言が求められているのか悩ましく(基準が明確であるがゆえに、意見がくみ取られる余地がないように感じれる)またオンラインだと発言のタイミングを計ることも難しいと思いました。

現在のヒアリングの内容であればオンラインでも十分と思います。法人は、評価者からの質問には真摯に回答しようとしていたと思います。

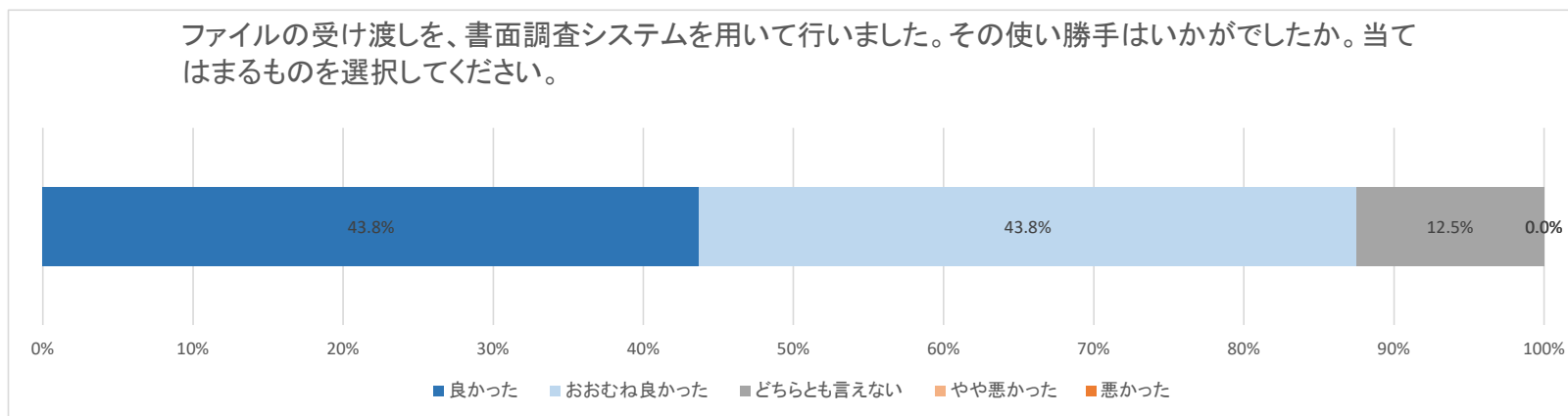
今期は、私が担当する対象大学については一つもヒアリングを実施しないこととなった。前期は今期とは異なる対象大学であったが、ほとんどすべてにヒアリングを実施することによって、文書では理解しきれない大学の実情への理解が深まった。大学の負担軽減の趣旨は理解できるが、可能な限りヒアリングすることは有益と考える。

Ⅲ 評価作業と評価者研修について

(1)書面調査システムによる作業について

ファイルの受け渡しを、書面調査システムを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。当てはまるものを選択してください。

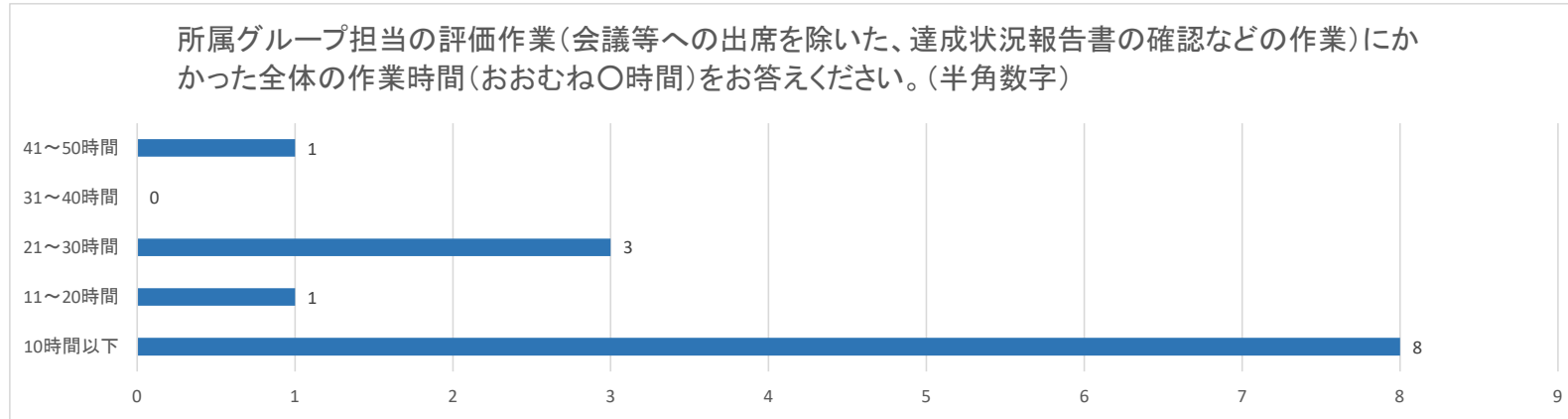
良かった	おおむね良かった	どちらとも言えない	やや悪かった	悪かった
43.8%	43.8%	12.5%	0.0%	0.0%



(2)作業時間について

所属グループ担当の評価作業(会議等への出席を除いた、達成状況報告書の確認などの作業)にかかった全体の作業時間(おおむね〇時間)をお答えください。(半角数字)

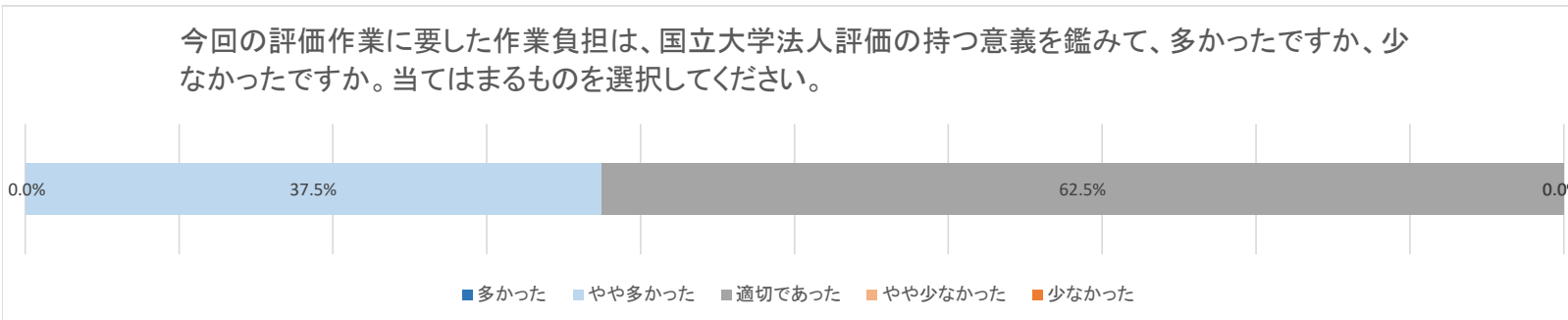
10時間以下	11~20時間	21~30時間	31~40時間	41~50時間
8	1	3	0	1



(3)作業負担について

今回の評価作業に要した作業負担は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまるものを選択してください。

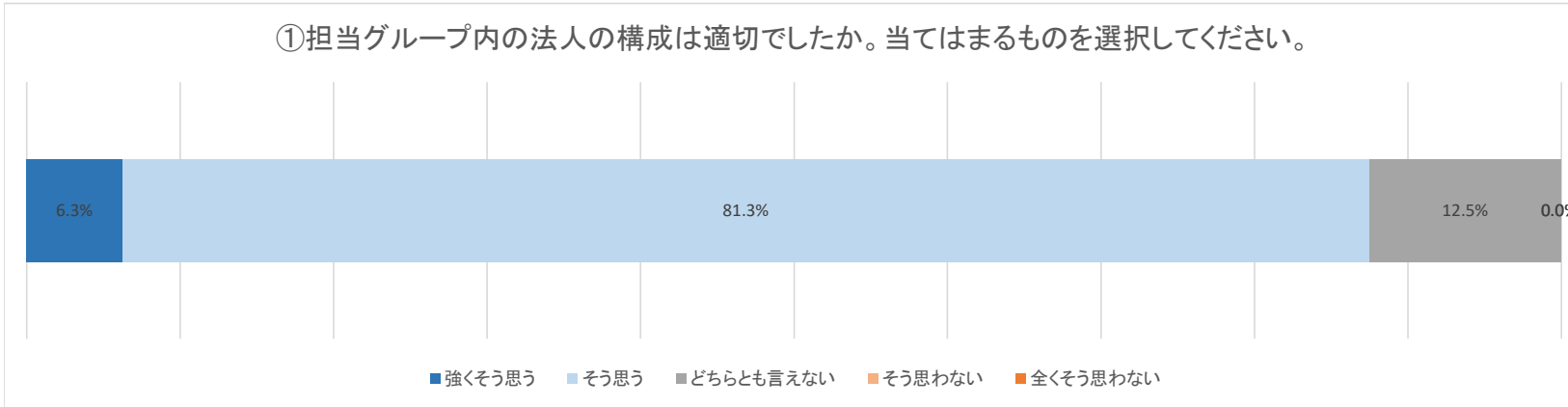
多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった
0.0%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%



(4) グループの法人の構成等について

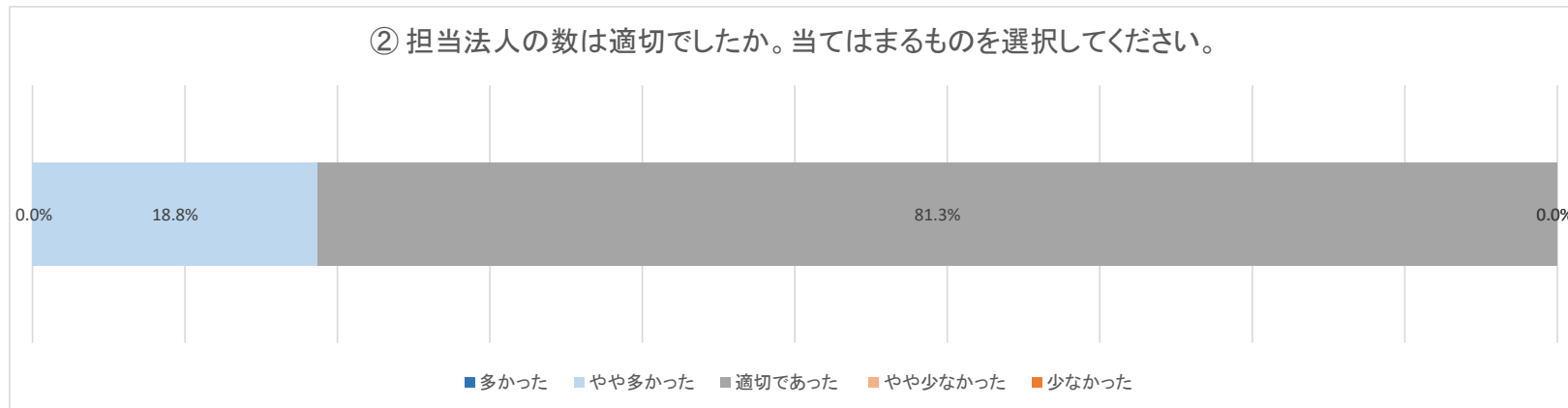
① 担当グループ内の法人の構成は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
6.3%	81.3%	12.5%	0.0%	0.0%



② 担当法人の数は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。

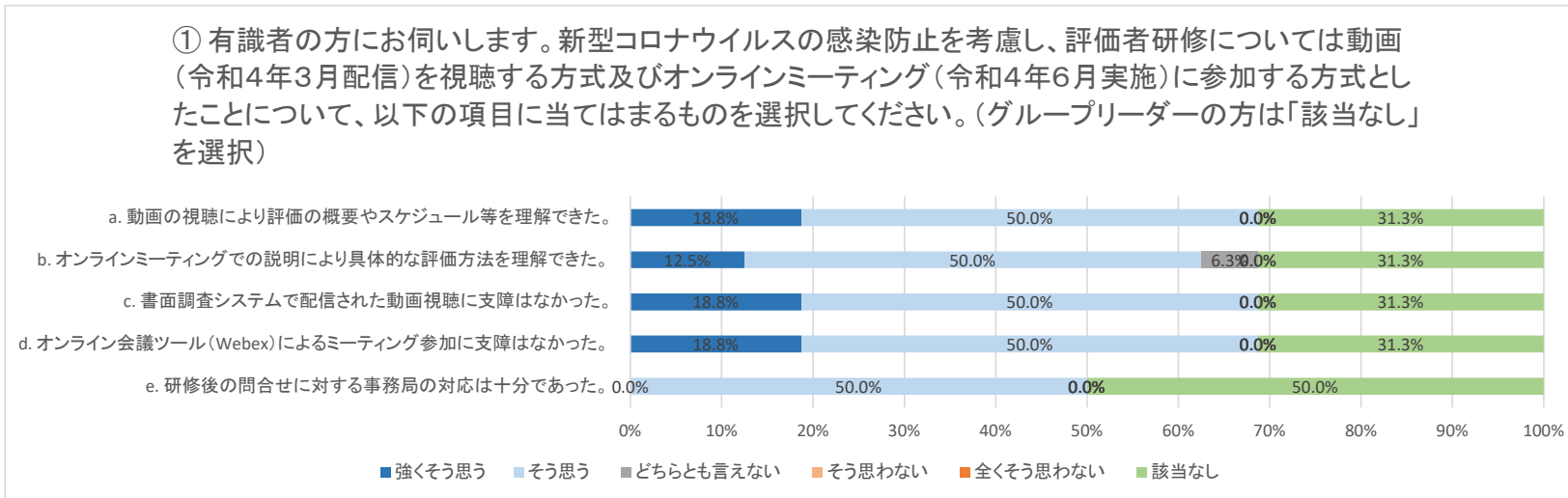
多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった
0.0%	18.8%	81.3%	0.0%	0.0%



(5) 評価者研修について(有識者の方のみ)

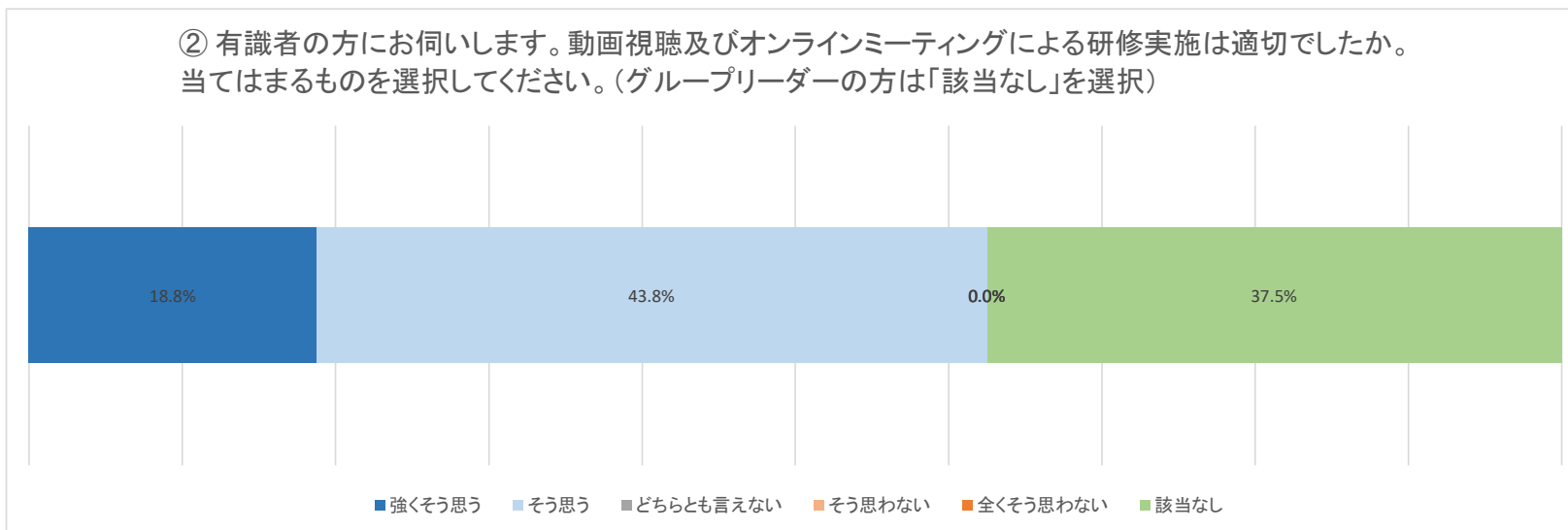
① 有識者の方にお伺いします。新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、評価者研修については動画(令和4年3月配信)を視聴する方式及びオンラインミーティング(令和4年6月実施)に参加する方式としたことについて、以下の項目に当てはまるものを選択してください。(グループリーダーの方は「該当なし」を選択)

	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	該当なし
a. 動画の視聴により評価の概要やスケジュール等を理解できた。	18.8%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31.3%
b. オンラインミーティングでの説明により具体的な評価方法を理解できた。	12.5%	50.0%	6.3%	0.0%	0.0%	31.3%
c. 書面調査システムで配信された動画視聴に支障はなかった。	18.8%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31.3%
d. オンライン会議ツール(Webex)によるミーティング参加に支障はなかった。	18.8%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31.3%
e. 研修後の問合せに対する事務局の対応は十分であった。	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%



② 有識者の方にお伺いします。動画視聴及びオンラインミーティングによる研修実施は適切でしたか。当てはまるものを選択してください。(グループリーダーの方は「該当なし」を選択)

強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	該当なし
18.8%	43.8%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%



その他、全体的にお気づきの課題点や良かった点があればご記入ください。

グループ構成員の分担がよくできていた
今回担当した法人は複数の法人を統合したものが多かったが、その統合の経緯等について突っ込んで調査し認識することにより、有識者としての意義ある意見が言えたのでは、と反省しているところである。
グループリーダーは各ご担当の先生方の多大なるご尽力に比べれば、作業量については大きな負担はございませんでした。リーダーという立場が精神的な負担が正直あったことは事実でございます。一方、機構の職員の方々の適切なご指導により大役をまがりなりにも務めさせていただきました。皆様に感謝申し上げます。
全体的に法人がコロナ禍においても計画の遂行に真摯に努力していることがうかがえました。法人側・機構側ともに評価のために膨大な労力をさいていることも分かりました。一方で、今回の評価業務を超える議論としては、評価のスキームの設定の適否や、評価が実際に大学の教育・研究・社会貢献活動の改善にどの程度貢献しているかの検証も必要と思います。また「大学改革支援」の観点からは、各大学が改革のために直面している困難を把握し、支援するための事業の充実も望まれます。
私は有識者として参加しましたので、評価の過程の概要についてはグループリーダーはじめ主担当副担当の先生方に大変にお世話になりました。もちろん有識者として、会議に於いてはその役割を意識して論点について発言するなど貢献に努めましたが、どれだけお役に立てたか不明で心もとない想いです。有識者には、当該対象大学の評価において期待される役割があると思います。今後は、有識者枠の委員がその役割を十分に果たせるように、さらにご配慮をいただきますようお願い致します。
・7とも関係しますが、8の作業時間には、補助者によるデータ等の打ち出しと資料作成作業の時間は含んでいません。
全体に、よく洗練された評価の仕組みになっていると感じる。事務局の負担・作業は実に大変だろうと思うが、今後も事務局で、こうした評価作業のプロフェッショナルというべき人材を継続的に育成していくことが、とても重要と感じる。
全体としては、特段の問題もなく、適切に行われたと考えている。
特になし。グループリーダーの方の力の入れ方には恐れ入ったが、評価方法が未だ良く分かりません。